

第1章 学 則

○フェリス女学院大学学則

1965年 4 月 1 日制定	
1967年 4 月 1 日改正	1973年 5 月 9 日改正
1975年 4 月 3 日改正	1975年 6 月23日改正
1976年 2 月28日改正	1977年 6 月 7 日改正
1978年 4 月17日改正	1978年 8 月23日改正
1980年 3 月20日改正	1981年 2 月26日改正
1982年 3 月19日改正	1984年 2 月23日改正
1985年 3 月27日改正	1986年 2 月24日改正
1986年12月23日改正	1987年12月23日改正
1988年12月22日改正	1990年 4 月 1 日改正
1990年12月21日改正	1991年 5 月23日改正
1991年 9 月 6 日改正	1992年 2 月27日改正
1992年 3 月24日改正	1992年 7 月13日改正
1992年 9 月21日改正	1993年 3 月11日改正
1993年 3 月22日改正	1993年12月20日改正
1994年 5 月23日改正	1994年10月24日改正
1995年 2 月28日改正	1995年 3 月27日改正
1995年 5 月25日改正	1997年 2 月27日改正
1997年 9 月 8 日改正	1997年12月11日改正
1998年 2 月26日改正	1999年 2 月22日改正
1999年 5 月25日改正	1999年10月29日改正
2000年 2 月 4 日改正	2001年 2 月19日改正
2002年 3 月25日改正	2002年12月16日改正
2003年 2 月25日改正	2003年 5 月29日改正
2003年11月27日改正	2004年 2 月26日改正
2004年 3 月25日改正	2005年 2 月24日改正
2005年 3 月24日改正	2005年 9 月 5 日改正
2006年 2 月23日改正	2006年 3 月23日改正
2006年10月26日改正	2007年 2 月22日改正
2007年 3 月22日改正	2008年 2 月28日改正
2008年 3 月27日改正	2009年 2 月26日改正
2009年 5 月28日改正	2009年11月11日改正
2010年 2 月25日改正	2010年 3 月25日改正
2010年10月28日改正	2011年 2 月24日改正
2012年 2 月23日改正	2012年 3 月22日改正
2012年10月25日改正	2013年 2 月28日改正
2014年 3 月27日改正	2014年10月23日改正
2015年 2 月26日改正	2015年 3 月26日改正
2016年 3 月24日改正	2016年 5 月26日改正
2017年 2 月23日改正	2018年 2 月22日改正
2018年 3 月22日改正	2018年10月25日改正
2019年 2 月28日改正	2020年 2 月27日改正
2020年 3 月26日改正	2021年 2 月25日改正
2021年 3 月25日改正	2022年 2 月24日改正
2023年 3 月23日改正	2024年 2 月29日改正
2025年 2 月27日改正	

第1章 目的及び使命

（目的及び使命）

第1条 本学は、キリスト教を教育の基本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教育を授け、専門の学問を教授研究し、もって真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与す

第2編 大学（大学学則）

る人物を養成することを目的とする。

第1章の2 自己点検・評価

（自己点検・評価）

第1条の2 本学の設置目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について、
 不断の自己点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 本学は、前項の自己点検及び評価の結果について、本学の職員以外の者による検証を行うよう努める。

3 自己点検・評価に関し必要な事項は、別に定める。

第2章 組織及び学生収容定員

（組織）

第2条 本学にグローバル教養学部を置く。

2 グローバル教養学部に次の学科を置く。

(1) 国際社会学科

(2) 心理コミュニケーション学科

(3) 文化表現学科

（学部の教育研究目的）

第2条の2 グローバル教養学部は、本学の教育理念「For Others」のもと、複雑化・多様化する国際社会において、自立した市民として時代や環境の変化に対処するための力、すなわちグローバルな教養を身に付け、異なる文化や価値観をもつ人々と共生・協働し、国際社会の発展とイノベーションの推進に主体的に貢献できる創造的な人材を養成する。

（学生収容定員）

第2条の3 学生収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	収容定員
グローバル教養学部	国際社会学科	195 名	780 名
	心理コミュニケーション学科	180 名	720 名
	文化表現学科	170 名	680 名
合 計		545 名	2,180 名

（全学教養教育機構）

第2条の4 本学に全学教養教育機構を置く。

2 全学教養教育機構に関し必要な事項は、別に定める。

（大学院）

第2条の5 本学に大学院を置く。

2 大学院の学則は、別に定める。

第3章 授業科目

（授業科目）

第3条 本学の授業科目は、共通科目、専門科目及び教職に関する科目とし、その科目名及び単位数は、それぞれ別表第1、別表第2 - 1、別表第2 - 2及び別表第3のとおりとする。

2 共通科目は、C L A コア科目、語学科目及びP A 科目とする。

第2編 大学（大学学則）

（外国人留学生に関する授業科目）

第3条の2 前条のほか、外国人留学生を対象として別表第4のとおり日本語科目及び日本事情に関する科目を置く。

第4条から第8条まで 削除

第4章 履修方法、単位及び卒業の認定

（修業年限）

第9条 本学の修業年限を4年とする。

（在学期間）

第9条の2 在学期間は、8年を超えることができない。

2 第25条の2に規定する2年次編入学生の在学期間は、6年を超えることができない。

3 第25条の3に規定する3年次編入学生の在学期間は、4年を超えることができない。

（履修希望科目の届出）

第10条 学生は、毎学期始めに履修希望の授業科目を学部長に届け出て、その承認を受けなければならない。

2 休学期間中は、履修希望科目の届出はできない。

3 留学期間中は、履修希望科目の届出はできない。ただし、留学を終了した学期に願い出た者について、この届出を許可することがある。必要な手続及び条件については、別に定める。

（他学科専門科目の履修）

第11条 学生は、他学科の専門科目を履修することができる。

（単位の認定）

第12条 単位の認定は、試験その他の大学が定める適切な方法により学修の成果を評価して行う。ただし、卒業論文、卒業論文・卒業制作、卒業研究の単位の認定は審査によって行うものとし、必要に応じ、口頭試問を併せて行うことができる。

（受験資格）

第13条 学生は、履修授業科目について3分の2以上出席しなければ、当該授業科目の試験を受けることができない。

（単位の授与）

第14条 授業科目の到達目標を達成した者には、所定の単位を与える。

（入学前の既修得単位等の認定）

第14条の2 学生が入学前に修得した次の単位等については、教授会の定めるところにより、本学における授業科目の履修により修得した単位とみなし、又は与えることができる。

(1) 大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位

(2) 短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が大学教育に相当する水準を有すると認めた教育施設等における学修で本学が大学における授業科目の履修とみなした学修

2 前項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。

（他の大学等における授業科目の履修）

第2編 大学（大学学則）

第14条の3 本学の学生が他の大学等において修得した次の単位等については、教授会の定めるところにより、本学における授業科目の履修により修得した単位とみなし、又は与えることができる。

- (1) 他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位
- (2) 短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が大学教育に相当する水準を有すると認めた教育施設等における学修で本学が大学における授業科目の履修とみなした学修

2 前項第1号の規定は、学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合に準用する。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、本学において修得した単位以外のものについては、前条により本学において修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（遠隔授業）

第14条の4 本学が教育上有益と認めるときは、当該授業科目を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、60単位を超えないものとする。

（成績評価）

第15条 授業科目の成績は、S、A、B、C、F、又は合格、不合格の7種類の評語をもって表わし、S、A、B、C、又は合格を合格とする。

（単位）

第16条 授業科目の単位の計算方法は、次の基準によるものとする。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実技、実習及び実験については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、PA科目における個人指導による実技については、別に定める。

第17条 削除

（卒業の要件）

第18条 卒業資格の認定を得るためには、本学に4年以上在学し、別表第5 - 1及び別表第5 - 2に定めるところにより卒業に必要な単位を修得しなければならない。

（廃止科目等の取扱い）

第18条の2 第3条関係別表第1、別表第2 - 1、別表第2 - 2及び別表第3に定める授業科目のほか、学生が既に履修した授業科目の科目名及び修得した単位数については、なおその効力を有する。

（外国人留学生の卒業の要件）

第18条の3 外国人留学生については、第18条の要件に加え、次の各号の要件を満たさなければならない。

- (1) 第3条の2に定める日本語科目 第18条関係別表第5 - 1及び別表第5 - 2の語学科目に

第2編 大学（大学学則）

代えて 10単位

(2) 第3条の2に定める日本事情に関する科目 4単位

2 前項第1号に定める科目は語学科目とみなす。

3 第1項第1号については、そのうち8単位までは、学部の指定する授業科目を修得することにより代えることができる。

（教育職員免許状）

第19条 教育職員免許状を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める単位を修得しなければならない。

2 本学において取得できる免許状の種類は、次のとおりとする。

免許状の種類	免許教科	学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英 語	文化表現学科
中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	国 語	文化表現学科
中学校教諭一種免許状	社 会	国際社会学科
高等学校教諭一種免許状	地理歴史	国際社会学科
高等学校教諭一種免許状	公 民	国際社会学科

（日本語教員養成講座）

第19条の2 本学に日本語教員養成講座を置く。

2 前項の講座に関し必要な事項は、別に定める。

第5章 卒業及び学位の授与

（卒業及び学位授与）

第20条 第18条の規定により教授会の議を経て、卒業資格の認定を受けた者には、学長が卒業を決定し、学士の学位を授与する。

2 学位の授与に関する規則は、別に定める。

第21条 削除

第6章 学年、学期及び休業日

（学年及び学期）

第22条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 学年を分けて、次の2学期とする。

前期 4月1日から 9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

（授業期間）

第22条の2 授業を行う期間は、前期と後期を合わせて年間35週とする。

（休業日）

第23条 休業日は、次の各号に掲げるところによる。ただし、学長は、授業の都合等により、これを変更することができる。

第2編 大学（大学学則）

- (1) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (2) 日曜日、土曜日
- (3) 開学記念日 6月1日
- (4) 夏季休業日 8月1日から 9月20日まで
- (5) 冬季休業日 12月22日から 1月10日まで
- (6) 春季休業日 3月16日から 3月31日まで
- (7) 臨時休業日については、学長がその都度定める。

第7章 入学、留学、休学、退学等

（入学時期）

第24条 学生の入学時期は、学年の始めとする。ただし、教授会が十分な理由があると認めたときには、教育上支障がない限り、学期の始めとすることができる。

（入学資格）

第25条 本学の1年次に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する女子とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、高等学校卒業程度認定審査規則（令和4年文部科学省令第18号）による高等学校卒業程度認定審査に合格した者
- (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの
- (10) 前各号に掲げるもののほか、学校教育法第90条及び学校教育法施行規則第150条に該当する者

（2年次編入学）

第25条の2 本学の2年次に編入学（転入学を含む。）することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者又は学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

第2編 大学（大学学則）

- (2) 短期大学を卒業した者
- (3) 高等専門学校を卒業した者
- (4) 大学に1年以上（休学期間を除く。）在学し、30単位以上を修得した者
- (5) 学校教育法第132条に規定する専修学校の専門課程を修了した者
- (6) 学校教育法第58条の2に規定する高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）の専攻科の課程を修了した者
- (7) 外国において、学校教育における14年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。）を修了した者（日本における外国の大学又は短期大学相当として文部科学大臣が指定した外国の学校を含む。）

2 本学への2年次編入学を願い出た者については、欠員のある場合に限り、選考の上、学長がこれを許可する。

3 前2項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

（3年次編入学）

第25条の3 本学の3年次に編入学（転入学を含む。）することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する女子とする。

- (1) 大学を卒業した者又は学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (2) 短期大学を卒業した者
- (3) 高等専門学校を卒業した者
- (4) 大学に2年以上（休学期間を除く。）在学し、62単位以上を修得した者
- (5) 学校教育法第132条に規定する専修学校の専門課程を修了した者
- (6) 学校教育法第58条の2に規定する高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）の専攻科の課程を修了した者
- (7) 外国において、学校教育における14年の課程（日本における通常の課程による学校教育の期間を含む。）を修了した者（日本における外国の大学又は短期大学相当として文部科学大臣が指定した外国の学校を含む。）

2 本学への3年次編入学を願い出た者については、欠員のある場合に限り、選考の上、学長がこれを許可する。

3 前2項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

（出願）

第26条 本学への入学を志願する者は、所定の期限までに、志願手続（出願登録）を行い、出身学校の調査書等出願資格を証明する書類その他別に定める書類を提出するとともに、入学検定料を納入しなければならない。

（入学者の選抜）

第26条の2 入学志願者に対しては、学力検査等選抜を行い、教授会及び大学評議会の議を経て、学長が合格者を決定する。

2 選抜の方法、時期については、教授会が定める。

第2編 大学（大学学則）

（入学手続）

第26条の3 本学への入学の許可を受けた者で本学に入学する者は、所定の期限までに、入学手続金を納入しなければならない。

2 入学手続金については、第36条第1項に定めるところによる。

（宣誓）

第26条の4 本学への入学の許可を受けた者で本学に入学する者は、所定の宣誓をしなければならない。

2 本学への入学の許可を受けた者で本学に入学する者は、所定の期限までに、指定された手続を済ませ、次に掲げる書類を提出しなければならない。

(1) 誓約書・保証書（本学所定）

(2) 住民票

(3) 卒業証明書又は修了証明書（卒業見込み又は修了見込みで出願した者に限る。）

(4) 前3号のほか、本学が定める書類

（入学の決定）

第26条の5 学長は、前2条の手続を行った者について、入学を決定するものとする。

2 学長は、前2条の手続を行わない者の入学を取り消すことができる。

（保証人）

第27条 保証人は、父母又は独立の生計を営む者で、確実に保証人としての責任を果たし得る者でなければならない。

2 保証人は、保証する学生の在学中、その一身上に関する事項について一切の責務を負うものとする。ただし、金銭上の責任については、第26条の4第2項第1号に規定する誓約書・保証書に示された極度額の範囲内とする。

3 保証人が何らかの事由によって責務を果たし得ない場合又は保証人を変更しようとする場合には、新たに保証人を選定して速やかに届け出なければならない。

4 本学が保証人として不適当と認めたときは、その変更を命ずることができる。

（転居、改姓の届出）

第28条 学生又は保証人が転居、改姓したときは、その旨を速やかに届け出なければならない。

（留学）

第28条の2 外国の大学に留学を志願する者は、所定の手続により、許可を得て留学することができる。

2 留学の期間は、1年を限度として第9条の2に定める在学期間として扱う。

3 留学に関し必要な事項は、別に定める。

（休学）

第29条 病気その他やむを得ない理由により修学することができない者は、保証人連署の上、所定の期日までに願い出て、1学期又は1年を区分として休学することができる。

2 校医の診断に基づき病気のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は、休学を命ずることができる。

（休学期間）

第2編 大学（大学学則）

第29条の2 休学できる期間は、1年を超えることができない。ただし、特別の事情がある者は、学長の許可を得て、なお1年以内の休学をすることができる。

2 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

3 休学期間は、第9条の2の在学期間に算入しない。

（出席停止）

第30条 学長は、感染症にかかった学生又はそのおそれのある学生に対して、出席停止を命ずることができる。

（出席停止期間）

第30条の2 出席停止期間は、学校保健安全法施行規則（昭和33年文部省令第18号）第19条の規定に準じて、学長が決定する。

（転学科）

第31条 所属する学科から他の学科に転学科を願い出た者については、選考の上、これを許可することがある。

2 転学科に関し必要な事項は、別に定める。

第32条 削除

（退学）

第33条 退学しようとする者は、保証人連署の上、願い出なければならない。ただし、退学する日を含む学期の授業料等学納金を納入していなければならない。

（除籍）

第34条 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍する。

(1) 第9条の2に定める在学期間を超えて卒業資格を得られない者

(2) 学生納付金の納入を怠り、督促してもなお納入しない者

(3) 第29条の2第2項に定める休学期間を超えてなお復学できない者

(4) 死亡した者

(5) 長期間にわたり行方不明の者

（再入学）

第34条の2 本学を退学した者又は本学から除籍を受けた者が再入学を願い出たときは、選考の上、これを許可することがある。ただし、前条第1号により除籍を受けた者は、再入学を願い出ることとはできない。

2 再入学に関し必要な事項は、別に定める。

（学籍の異動に係る決定）

第34条の3 留学、休学、復学、転学、除籍及び再入学については、教授会の意見を参酌した上で、学長が決定する。

第8章 入学検定料、学生納付金

（入学検定料）

第35条 入学検定料の額は、別表第6に定めるところによる。

2 入学検定料を減免することがある。

3 前2項のほか、入学検定料の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

第2編 大学（大学学則）

（入学手続金）

第36条 入学の許可を受けた者で本学に入学する者は、本学が定める期間内に、入学金及び入学年度前期分の授業料等学納金（以下「学納金」という。）を納入しなければならない。

- 2 前項の規定に従って入学金及び学納金を納入した者が、入学以前の本学が定める期日までに入学辞退を申し出た場合は、既に納めた学納金を返還するものとする。ただし、入学金は返還しない。

（学納金）

第36条の2 学生は、学期ごとに当該学期分の学納金を、前期分については4月、後期分については10月に納入しなければならない。

- 2 学生は、学納金のうち施設設備費については、入学した年度から在学する8学期間（2年次編入学生にあっては6学期間、3年次編入学生にあっては4学期間）納入するものとする。

（留学生及び休学者の扱い）

第36条の3 第28条の2第1項の規定により本学から外国の大学に留学する者（以下「留学生」という。）は、本学が定める期間内に、所定の授業料及び施設設備費を納入しなければならない。

- 2 第29条の規定により休学する者（以下「休学者」という。）は、本学が定める期間内に、所定の在籍料を納入するものとし、休学期間中は施設設備費の納入を必要としない。ただし、休学者は、復学後、前条第2項に定められた残りの施設設備費を本学が定める期間内に納入しなければならない。

（納付額）

第36条の4 前3条の額は、別表第7-1、別表第7-2及び別表第7-3に定めるところによる。

- 2 学生は、在籍中に学生納付金に変更があった場合には、新たに定められた金額を納付するものとする。

（編入学生の学生納付金）

第36条の5 編入学生の入学金及び学納金は、編入学する年次の額を適用する。

（再入学生の学生納付金）

第36条の6 第34条の2第1項の規定による再入学を願い出る者の入学検定料は、再入学を希望する年度の入学検定料の2分の1の額とする。

- 2 再入学の許可を受けた者の入学金は、再入学する年度の入学金の2分の1の額とし、学納金は、再入学する年度の1年次生に適用する額とする。
- 3 退学又は除籍以前の在学期間が第9条に規定する修業年限を超えている者については、学納金のうち施設設備費は、納入を必要としない。

（納入方法等）

第37条 第35条から前条までに定めるもののほか、学生納付金の額、納入方法等は、別に定める。

- 2 いったん納めた学生納付金は、別に定める場合を除き、返還しない。

第9章 教職員組織

第2編 大学（大学学則）

（教職員組織）

第38条 本学に学長、副学長を置く。

2 本学に次の教職員を置く。

教授

准教授

助教

講師

助手

副手

事務職員

医療職員

3 学長、副学長及び教職員の職務は、学校教育法その他法令の定めるもののほか、別に定めるところによる。

第10章 教授会及び大学評議会

（教授会）

第39条 本学に教授会を置き、グローバル教養学部に所属する専任教員をもって構成する。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

（大学評議会）

第39条の2 本学に大学評議会を置く。

2 大学評議会に関し必要な事項は、別に定める。

第11章 削除

第40条 削除

第12章 図書館、研究施設及びセンター

（附属図書館）

第41条 本学に附属図書館を置く。

2 附属図書館に関し必要な事項は、別に定める。

（教育研究施設）

第42条 本学に教育研究施設を置くことができる。

2 教育研究施設に関し必要な事項は、別に定める。

（センター）

第42条の2 本学に教育・研究の特定分野を所管する附属のセンターを置くことができる。

2 センターに関し必要な事項は、別に定める。

第13章 科目等履修生、交流学生、外国人留学生及び交換留学生

（科目等履修生）

第43条 学長は、本学学生でない者で本学所定の授業科目の履修を希望する者については、選考の上、科目等履修生として履修を許可することができる。

2 前項の許可を受けようとする者は、所定の手続により、選考料を添えて学長に願い出なければならない。

第2編 大学（大学学則）

3 科目等履修生として履修を許可された者は、所定の期日までに登録料・施設設備利用料及び受講料を納入しなければならない。ただし、履修する科目について単位の認定を希望する者は、単位認定料を併せて納入しなければならない。

4 前2項の額は、別表第8に定めるとおりとする。

5 既に納めた選考料、登録料・施設設備利用料、受講料及び単位認定料は、いかなる理由にかかわらず返還しない。

6 前各項に定めるもののほか、科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。

（交流学生）

第43条の2 学長は、本学と協定のある日本国内の他の大学に在籍する学生で本学所定の授業科目の履修を希望する者については、選考の上、交流学生として履修を許可することができる。

2 前項の許可を受けようとする者は、所定の手続により、学長に願い出なければならない。

3 前2項に定めるもののほか、交流学生に関し必要な事項は、別に定める。

（外国人留学生）

第44条 学長は、外国人で大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者については、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。

（交換留学生）

第44条の2 学長は、本学と協定のある外国の大学の学生については、交換留学生として入学を許可することができる。

2 交換留学生に関し必要な事項は、別に定める。

第14章 公開講座

（公開講座）

第45条 本学に、公開講座を開設することができる。

2 公開講座に関し必要な事項は、別に定める。

第15章 削除

第46条 削除

第16章 学内諸施設

（厚生施設）

第47条 本学に保健室等必要な厚生施設を置く。

（寄宿舍）

第48条 本学に寄宿舍を置くことができる。

2 寄宿舍に関し必要な事項は、別に定める。

（体育館）

第48条の2 本学に体育館を置く。

2 体育館に関し必要な事項は、別に定める。

（その他の厚生施設）

第49条 前3条に定めるもののほか、大学に必要な厚生施設を置くことができる。

第17章 奨学金

第2編 大学（大学学則）

（奨学金）

第49条の2 本学に奨学金制度を設け、学業成績、人物ともに優秀な者又は経済的理由により修学困難な者に対しては、選考の上、学長が奨学金の授与を決定する。

2 奨学金に関し必要な事項は、別に定める。

第18章 賞罰

（表彰）

第50条 学生としての本分を全うし、特に他の模範となると認められる者があるときは、これを表彰する。

2 表彰に関し必要な事項は、別に定める。

（懲戒）

第51条 本学の学則及び訓育の趣旨に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、これを懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者について行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学業劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席常でない者

(4) 学内の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

4 学生の処分に関し必要な事項は、別に定める。

（賞罰の決定）

第51条の2 前2条に規定する賞罰は、教授会の意見を参酌した上で、学長が決定する。

第19章 雑則

（その他の事項）

第52条 この学則に定めるもののほか、本学の教育研究に関し必要な事項は、学長が決定する。

2 前項により決定した教育研究に関わる事項は、学長発信をもって大学教職員に周知するものとする。

（学則の改正）

第53条 この学則の改正は、教授会及び大学評議会の議を経て、理事会の承認を得て行うものとする。

附 則

この規則は、公布の日から施行し、昭和40年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、公布の日から施行し、昭和42年4月1日から適用する。

附 則

本学則は、公布の日から施行し、昭和48年4月1日から適用する。

附 則

本学則は、公布の日から施行し、昭和49年4月1日から適用する。

附 則

第2編 大学（大学学則）

本学則は、公布の日から施行し、昭和50年4月1日から適用する。

附 則

本学則は、公布の日から施行し、昭和51年4月1日から適用する。

附 則

本学則は、公布の日から施行し、昭和52年4月1日から適用する。

附 則

本学則は、公布の日から施行し、昭和53年4月1日から適用する。

附 則

本学則は、公布の日から施行し、昭和54年4月1日から適用する。

附 則

本学則は、公布の日から施行し、昭和55年4月1日から適用する。

附 則

本学則は、公布の日から施行し、昭和56年4月1日から適用する。

附 則

本学則は、公布の日から施行し、昭和57年4月1日から適用する。

附 則

本学則は、公布の日から施行し、昭和59年4月1日から適用する。

附 則

本学則は、公布の日から施行し、昭和60年4月1日から適用する。

附 則

本学則は、公布の日から施行し、昭和61年4月1日から適用する。

附 則

本学則は、昭和62年4月1日から施行する。ただし、第40条の規定にかかわらず昭和62年度から平成7年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科	入学定員
文学部	名
英文学科	140
国文学科	140
計	280

附 則

本学則は、昭和63年4月1日から施行する。ただし、第40条の規定にかかわらず昭和63年度から平成2年度までの間の国際文化学科の総定員は、次のとおりとする。

年度 学科	昭和63年度	平成元年度	平成2年度
	名	名	名
国際文化学科	80	160	240

附 則

第2編 大学（大学学則）

- 1 本学則は、1989年4月1日から施行する。ただし、第14条の2については、1988年4月1日から適用する。
- 2 第40条の規定にかかわらず平成元年度から平成3年度までの間の音楽学部の総定員は、次のとおりとする。

年度 学部 学科	平成元年度	平成2年度	平成3年度
音楽学部	名	名	名
声楽学科	20	40	60
器楽学科	20	40	60
楽理学科	10	20	30
計	50	100	150

附 則

本学則は、1990年4月1日から施行する。ただし、改正後の学則第8条、第18条並びに第19条にかかわらず、1989年度以前入学生は、なお従前のとおりとする。

附 則

本学則は、1991年4月1日から施行する。ただし、第40条の規定にかかわらず、1991年度から1999年度までの間の音楽学部声楽学科及び器楽学科の入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科	入学定員
音楽学部	名
声楽学科	30
器楽学科	40

附 則〔1991年5月23日理事会決定〕

本学則は、1992年4月1日から施行する。

附 則〔1991年9月6日理事会決定〕

本学則は、1991年9月6日から施行する。ただし、第7条別表2のC、第18条、第37条別表4及び第43条については1992年4月1日から適用する。

附 則〔1992年2月27日理事会決定〕

本学則は、1992年4月1日から施行する。ただし、第40条及び附則（昭和62年4月1日施行）の規定にかかわらず、1992年度から1999年度までの間の文学部の入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科	入学定員	
	1992年度～1995年度	1996年度～1999年度
文学部	名	名
英文学科	155	135
国文学科	155	135
国際文化学科	95	95

附 則〔1992年3月24日理事会決定〕

本学則は、1992年4月1日から施行する。

第2編 大学（大学学則）

附 則〔1992年7月13日理事会決定〕

- 1 本学則は、1993年4月1日から施行する。
- 2 第18条において、1992年度以前の入学生に適用する表の区分は、第3条の規定に基づき、「一般教育科目」を「共通科目」の「基礎教養科目」及び「総合課題科目」に、「保健体育科目」を「共通科目」の「基礎教養科目」に、「外国語科目」を「共通科目」の「語学科目」にそれぞれ読み替えるものとし、音楽学部の「基礎教育科目」を、「音楽学部専門科目」の該当する授業科目にそれぞれ読み替えるものとする。

附 則〔1992年7月13日理事会決定〕

- 1 本学則は、1993年3月11日から施行する。ただし、文学部国文学科の名称に関する改正規定は、1993年4月1日から施行する。
- 2 文学部国文学科は、改正後の学則の規定にかかわらず、1993年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学なくなる日までの間、存続するものとする。

附 則〔1992年7月13日理事会決定〕

本学則は、1993年3月16日から施行する。ただし、音楽学部の教育職員免許状に関する改正規定は、1993年4月1日から施行する。

附 則〔1992年9月21日理事会決定〕

本学則は、1993年4月1日から施行する。

附 則〔1993年3月22日理事会決定〕

- 1 本学則は、1993年4月1日から施行する。
- 2 第15条の規定にかかわらず、1992年度以前入学生については、授業科目の試験の成績は、A、B、C、Fの4種類の評語をもって表わし、A、B、Cを合格とする。

附 則〔1993年12月20日理事会決定〕

この学則は、1994年4月1日から施行する。ただし、第3条の別表1のC及び別表2のA、B、C、第3条の2の別表4及び第18条第1項の文学部1993年度以降入学生に適用する表は、1993年4月1日から適用する。

附 則〔1994年5月23日理事会決定〕

この学則は、1994年5月23日から施行する。ただし、第18条第1項の文学部1991年度以前入学生及び1992年度入学生並びに音楽学部1991年度以前入学生及び1992年度入学生に適用する表中、専門教育科目の帰国子女に係る必修科目の廃止については、1994年4月1日から適用する。

附 則〔1994年10月24日理事会決定〕

この学則は、1995年4月1日から施行する。

附 則〔1995年2月28日理事会決定〕

この学則は、1995年4月1日から施行する。

附 則〔1995年3月27日理事会決定〕

この学則は、1995年4月1日から施行する。

附 則〔1995年5月25日理事会決定〕

- 1 この学則は、1996年4月1日から施行する。ただし、改正後の第37条関係別表5 - 1に規定する入学検定料の額は、1996年度入学試験から適用する。

第2編 大学（大学学則）

- 2 改正後の第2条の2及び附則（1992年4月1日施行）の規定にかかわらず、1996年度から1999年度までの間の文学部英文学科及び日本文学科の入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科	入学定員
文学部	名
英文学科	155
日本文学科	155

- 3 1992年度以前入学者の卒業に必要な単位数は、改正後の第18条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔1995年5月25日理事会決定〕

- この学則は、1997年4月1日から施行する。
- 文学部国際文化学科は、改正後の第2条の規定にかかわらず、1997年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 改正後の第2条の2の規定にかかわらず、1997年度から1999年度までの間の文学部英文学科及び日本文学科並びに国際交流学部国際交流学科の入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科	入学定員
文学部	名
英文学科	135
日本文学科	145
国際交流学部	
国際交流学科	155

- 4 1993年度以前入学者及び文学部国際文化学科在学者の卒業に必要な単位数は、改正後の第18条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔1997年2月27日理事会決定〕

- この学則は、1997年4月1日から施行する。
- 音楽学部1993年度から1996年度入学者に適用する各学科専門科目は、改正後の第3条関係別表2にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔1997年9月8日理事会決定〕

この学則は、1998年4月1日から施行する。

附 則〔1997年12月11日理事会決定〕

この学則は、1998年4月1日から施行する。

附 則〔1998年2月26日理事会決定〕

この学則は、1998年4月1日から施行する。

附 則〔1999年2月22日理事会決定〕

この学則は、1999年4月1日から施行する。ただし、改正後の第37条関係別表5-1に規定する入学検定料の額は、1999年度入学試験から適用する。

附 則〔1999年5月25日理事会決定〕

- この学則は、2000年4月1日から施行する。
- 2000年度から2003年度までの間の文学部英文学科及び日本文学科、音楽学部声楽学科及び器

第2編 大学（大学学則）

楽学科、国際交流学部国際交流学科の入学定員は、改正後の第2条の2の規定にかかわらず、次のとおりとする。

学部・学科	入学定員			
	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
文学部	名	名	名	名
英文学科	125	121	118	115
日本文学科	125	122	118	114
音楽学部				
声楽学科	29	28	27	26
器楽学科	53	51	49	47
国際交流学部				
国際交流学科	161	159	158	156

附 則〔1999年10月29日理事会決定〕

- この学則は、2000年4月1日から施行する。
- 音楽学部1996年度以前入学者に適用する音楽学部共通専門科目は、改正後の第3条関係別表第2の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 文学部1995年度以前入学者及び音楽学部1996年度以前入学者の卒業に必要な単位は、改正後の第18条関係別表第5の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2000年2月4日理事会決定〕

この学則は、2000年4月1日から施行する。

附 則〔2001年2月19日理事会決定〕

- この学則は、2001年4月1日から施行する。ただし、改正後の第35条関係別表第6に規定する入学検定料の額は、2001年度入学試験から適用する。
- 文学部1996年度及び1997年度入学者の卒業に必要な単位は、改正後の第18条関係別表第5の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2002年3月25日理事会決定〕

この学則は、2002年4月1日から施行する。

附 則〔2002年12月16日理事会決定〕

- この学則は、2004年4月1日から施行する。
- 音楽学部楽理学科は、改正後の第2条の規定にかかわらず、2004年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則〔2003年2月25日理事会決定〕

- この学則は、2003年4月1日から施行する。
- 改正後の第35条第4項に規定する入学検定料の減免については、2003年度入学試験から適用する。
- 音楽学部器楽学科2000・2001・2002年度入学者の卒業に必要な単位の改正は、2003年2月25日から施行し、2000年4月1日から適用する。

附 則〔2003年5月29日理事会決定〕

第2編 大学（大学学則）

この学則は、2004年4月1日から施行する。

附 則〔2003年11月27日理事会決定〕

この学則は、2003年11月27日から施行する。

附 則〔2004年2月26日理事会決定〕

- 1 この学則は、2004年4月1日から施行する。
- 2 2003年度以前入学者の外国人留学生の卒業に必要な単位は、改正後の第18条の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2004年3月25日理事会決定〕

- 1 この学則は、2005年4月1日から施行する。ただし、改正後の第35条関係別表第6に規定する入学検定料の額は、2005年度入学試験から適用する。
- 2 音楽学部声楽学科及び器楽学科は、改正後の第2条の規定にかかわらず、2005年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 音楽学部声楽学科及び器楽学科在学者の取得できる教育職員免許状の種類は、改正後の第19条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 1996年度以前入学者の授業料等学納金については、改正後の第36条及び第36条の2関係別表第7の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 5 2005年度及び2006年度音楽学部3年次編入学試験に係る入学検定料の額は、改正後の第35条関係別表第6の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 6 2005年度及び2006年度音楽学部3年次編入学者に係る入学金及び授業料等学納金の額は、改正後の第36条及び第36条の2関係別表第7の規定にかかわらず、2004年度以前入学者に準じて納入しなければならない。

附 則〔2005年2月24日理事会決定〕

- 1 この学則は、2005年4月1日から施行する。
- 2 2003年度以前入学者及び2004年度入学者の外国人留学生の卒業に必要な単位は、それぞれ改正後の第18条の2の規程にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2005年3月24日理事会決定〕

この学則は、2005年4月1日から施行する。

附 則〔2005年3月24日理事会決定〕

この学則は、2006年4月1日から施行し、2006年度入学試験から適用する。

附 則〔2005年9月5日理事会決定〕

この学則は、2006年4月1日から施行する。

附 則〔2006年2月23日理事会決定〕

この学則は、2006年4月1日から施行する。

附 則〔2006年3月23日理事会決定〕

この学則は、2007年4月1日から施行し、2007年度入学試験から適用する。

附 則〔2006年10月26日理事会決定〕

この学則は、2007年4月1日から施行する。

附 則〔2007年2月22日理事会決定〕

第2編 大学（大学学則）

- 1 この学則は、2007年4月1日から施行する。ただし、改正後の第36条及び第36条の2に規定する納入方法は、2007年度入学試験より適用する。
- 2 2006年度以前入学者の授業料等学納金については、改正後の第36条及び第36条の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 2007年度及び2008年度3年次編入学者の施設設備費の納入については、改正後の第36条及び第36条の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 2007年度2年次編入学者の施設設備費納入については、改正後の第36条及び第36条の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2007年3月22日理事会決定〕

この学則は、2007年4月1日から施行する。

附 則〔2007年3月22日理事会決定〕

この学則は、2008年4月1日から施行し、2008年度入学試験から適用する。

附 則〔2008年2月28日理事会決定〕

この学則は、2008年4月1日から施行する。

附 則〔2008年3月27日理事会決定〕

この学則は、2008年4月1日から施行し、2008年度入学者から適用する。

附 則〔2009年2月26日理事会決定〕

この学則は、2009年4月1日から施行する。

附 則〔2009年5月28日理事会決定〕

この学則は、2010年4月1日から施行する。

附 則〔2010年2月25日理事会決定〕

この学則は、2010年4月1日から施行する。

附 則〔2010年3月25日理事会決定〕

この学則は、2011年4月1日から施行し、2011年度入学試験から適用する。

附 則〔2010年10月28日理事会決定〕

この学則は、2011年4月1日から施行する。

附 則〔2011年2月24日理事会決定〕

この学則は、2011年4月1日から施行する。

附 則〔2012年2月23日理事会決定〕

この学則は、2012年4月1日から施行する。

附 則〔2012年3月22日理事会決定〕

この学則は、2012年4月1日から施行する。

附 則〔2012年10月25日理事会決定〕

- 1 この学則は、2014年4月1日から施行する。
- 2 文学部英文学科及び日本文学科は、改正後の第2条の規定にかかわらず、2014年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 3 文学部英文学科及び日本文学科在学者の卒業に必要な単位は、改正後の第18条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

第2編 大学（大学学則）

4 文学部英文学科在学者の外国人留学生の卒業に必要な単位は、改正後の第18条の2第4項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

5 文学部英文学科及び日本文学科在学者の取得できる教育職員免許状の種類は、改正後の第19条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2013年2月28日理事会決定〕

1 この学則は、2013年2月28日から施行し、2011年4月1日から適用する。

2 前項の規定にかかわらず、改正後の第3条関係別表第1-Cに規定する「フランス語 s(L L)」「ドイツ語 s(L L)」「スペイン語 s(L L)」「中国語 s(L L)」「朝鮮語 s(L L)」については、2003年4月1日から適用する。

附 則〔2013年2月28日理事会決定〕

この学則は、2013年4月1日から施行する。

附 則〔2013年2月28日理事会決定〕

この学則は、2014年4月1日から施行し、2014年度入学試験から適用する。

附 則〔2014年3月27日理事会決定〕

この学則は、2014年4月1日から施行する。

附 則〔2014年10月23日理事会決定〕

この学則は、2016年4月1日から施行し、2016年度入学試験から適用する。

附 則〔2015年2月26日理事会決定〕

この学則は、2015年4月1日から施行する。

附 則〔2015年3月26日理事会決定〕

この学則は、2015年4月1日から施行する。

附 則〔2016年3月24日理事会決定〕

1 この学則は、2016年4月1日から施行する。

2 2017年度編入学者及び2018年度3年次編入学者の入学金及び学納金については、改正後の第36条の5の規定により、改正後の第36条の4関係別表第7-1を適用する。

附 則〔2016年5月26日理事会決定〕

この学則は、2017年4月1日から施行する。

附 則〔2017年2月23日理事会決定〕

1 この学則は、2017年4月1日から施行する。

2 2016年度以前に入学した者の第3条第2項の適用については、なお従前の例による。

附 則〔2018年2月22日理事会決定〕

1 この学則は、2018年4月1日から施行する。ただし、改正後の第18条の3に規定する外国人留学生の卒業に必要な単位及び改正後の第18条関係別表第5に規定する卒業に必要な単位は2017年4月1日から適用する。

2 2016年度以前入学の外国人留学生の卒業に必要な単位は、改正後の第18条の3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2018年2月22日理事会決定〕

1 この学則は、2019年4月1日から施行する。

第2編 大学（大学学則）

- 2 音楽学部演奏学科は、改正後の第2条の規定にかかわらず、2019年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 音楽学部演奏学科在学者の取得できる教育職員免許状の種類は、改正後の第19条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 音楽学部演奏学科編入学試験に係る入学検定料の額は、改正後の第35条関係別表第6の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2018年3月22日理事会決定〕

この学則は、2018年3月22日から施行し、2017年7月1日から適用する。

附 則〔2018年10月25日理事会決定〕

この学則は、2019年4月1日から施行する。

附 則〔2019年2月28日理事会決定〕

この学則は、2019年4月1日から施行する。

附 則〔2020年2月27日理事会決定〕

この学則は、2020年4月1日から施行する。

附 則〔2020年3月26日理事会決定〕

この学則は、2020年4月1日から施行する。

附 則〔2021年2月25日理事会決定〕

この学則は、2021年4月1日から施行する。

附 則〔2021年3月25日理事会決定〕

- 1 この学則は、2021年4月1日から施行する。
- 2 前項の規定にかかわらず、改正後の第3条関係別表第1 - Dに規定する「英語e (Extensive Reading)」については、2015年4月1日から適用する。

附 則〔2022年2月24日理事会決定〕

この学則は、2022年4月1日から施行する。

附 則〔2023年3月23日理事会決定〕

この学則は、2023年4月1日から施行する。

附 則〔2024年2月29日理事会決定〕

この学則は、2024年4月1日から施行する。ただし、改正後の第25条に規定する入学資格は、2024年度入学試験から適用する。

附 則〔2024年2月29日理事会決定〕

- 1 この学則は、2025年4月1日から施行する。
- 2 文学部英語英米文学科、日本語日本文学科、コミュニケーション学科、音楽学部音楽芸術学科及び国際交流学部国際交流学科は、改正後の第2条の規定にかかわらず、2025年3月31日に当該学部・学科に在学する者が当該学部・学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 3 文学部、音楽学部及び国際交流学部の教育研究目的は、改正後の第2条の2の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 文学部、音楽学部及び国際交流学部の学生収容定員は、改正後の第2条の3の規定にかかわ

第2編 大学（大学学則）

らず、なお従前の例による。

- 5 2024年度以前入学者に適用する共通科目は、改正後の第3条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 6 2024年度以前入学者の履修できる他学部他学科専門科目は、改正後の第11条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 7 2024年度以前入学者の単位の認定は、改正後の第12条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 8 2024年度以前入学者の音楽学部における個人指導による実技の単位は、改正後の第16条第3号の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 9 文学部、音楽学部及び国際交流学部に進学する外国人留学生の卒業の要件は、改正後の第18条の3の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 10 文学部、音楽学部及び国際交流学部に進学する者の取得できる教育職員免許状の種類は、改正後の第19条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 11 2024年度以前入学者の転学部及び転学科は、改正後の第31条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 12 文学部、音楽学部及び国際交流学部の入学検定料については、改正後の第35条関係別表第6の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 13 改正後の第43条関係別表第8に規定する科目等履修生受講料等は、2025年度選考から適用する。

附 則〔2025年2月27日理事会決定〕

- 1 この学則は、2025年4月1日から施行する。
- 2 文学部、音楽学部及び国際交流学部に進学する外国人留学生の卒業の要件は、改正後の第18条の3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

第2編 大学（大学学則）

別表第1（第3条関係）

共通科目

（ ）内は単位数

A 基礎教養科目
2016年度以前入学者

キリスト教概論	(2)	ジェンダー&セクシュアリティ入門	(2)
哲学A	(2)	ボランティア活動（短期）	(1)
哲学B	(2)	ボランティア活動（中期）	(2)
心理学	(2)	ボランティア活動（長期）	(6)
青年心理	(2)	美術芸術論	(2)
ジェンダーと教育の歴史	(2)	デザインと表現	(2)
ジェンダー特論	(2)	デザイン概論	(2)
ジェンダーと人権	(2)	ことばとデザイン	(2)
ジェンダーから学ぶ現代社会	(2)	メディア・デザイン	(2)
男性学	(2)	ファッションデザイン論	(2)
グローバリゼーションとジェンダー	(2)	コピーライティング演習	(2)
男女共同参画政策	(2)	住空間デザイン	(2)
地域社会と女性リーダー	(2)	都市生活の空間デザイン	(2)
プロジェクトで学ぶ	(1)	科学技術入門	(2)
今年の一冊	(2)	数学の基礎	(2)
アカデミック・ライティング	(2)	情報科学：コンピュータと社会	(2)
プレゼンテーションのスキル	(2)	情報科学：ソフトウェアとビジネス	(2)
情報とメディアのリテラシー	(2)	情報リテラシー：コンピュータサイエンス入門	(2)
読書とメディア	(2)	情報リテラシー：データサイエンス入門	(2)
日本国憲法	(2)	健康・スポーツ論	(2)
一神教概論	(2)	スポーツ実習	(1)

B 総合課題科目
2016年度以前入学者

キリスト教教学	(2)	キャリア形成の実際	(2)
フェリス女学院とキリスト教	(2)	キャリア実習（短期就業体験）	(1)
ディスカッションのスキル	(2)	キャリア実習（短期インターンシップ）	(1)
市民活動の役割と意義	(2)	キャリア実習（長期就業体験）	(2)
キャリア形成の基礎	(2)	キャリア実習（長期インターンシップ）	(2)
キャリア形成の意義	(2)	生命科学と倫理	(2)
キャリア形成の諸問題	(2)		

第2編 大学（大学学則）

C C L A コア科目

2017～2024年度入学者

キリスト教概論	(2)	情報科学：ソフトウェアとビジネス	(2)
キリスト教学	(2)	健康・スポーツ論	(2)
哲学A	(2)	スポーツ実習	(1)
哲学B	(2)	アカデミック・ライティング	(2)
心理学	(2)	プレゼンテーションのスキル	(2)
青年心理	(2)	アカデミック・ライティング入門	(2)
ジェンダーと教育の歴史	(2)	情報リテラシー基礎	(2)
ジェンダー特論	(2)	ディスカッションのスキル	(2)
ジェンダーと人権	(2)	情報とメディアのリテラシー	(2)
ジェンダーから学ぶ現代社会	(2)	読書とメディア	(2)
男性学	(2)	今年の一冊	(2)
グローバリゼーションとジェンダー	(2)	ボランティア活動（短期）	(1)
男女共同参画政策	(2)	ボランティア活動（中期）	(2)
地域社会と女性リーダー	(2)	ボランティア活動（長期）	(6)
プロジェクトで学ぶ	(1)	市民活動の役割と意義	(2)
美術芸術論	(2)	情報リテラシー：コンピュータサイエンス入門	(2)
デザインと表現	(2)	情報リテラシー：データサイエンス入門	(2)
デザイン概論	(2)	キャリア形成の基礎	(2)
ことばとデザイン	(2)	キャリア形成の意義	(2)
メディア・デザイン	(2)	キャリア形成の諸問題	(2)
ファッションデザイン論	(2)	キャリア形成の実際	(2)
コピーライティング演習	(2)	キャリア実習（短期就業体験）	(1)
生命科学と倫理	(2)	キャリア実習（短期インターンシップ）	(1)
日本国憲法	(2)	キャリア実習（長期就業体験）	(2)
一神教概論	(2)	キャリア実習（長期インターンシップ）	(2)
ジェンダー＆セクシュアリティ入門	(2)	住空間デザイン	(2)
数学の基礎	(2)	都市生活の空間デザイン	(2)
科学技術入門	(2)	フェリス女学院とキリスト教	(2)
情報科学：コンピュータと社会	(2)	プロジェクト演習	(1)

2025年度以降入学者

キリスト教概論	(2)	ジェンダーから学ぶ現代社会	(2)
キリスト教学	(2)	ジェンダー特論	(2)
フェリス女学院とキリスト教	(2)	男女共同参画政策	(2)
一神教概論	(2)	地域社会と女性リーダー	(2)
アカデミック・ライティング入門	(2)	ジェンダーと人権	(2)
アカデミック・ライティング	(2)	男性学	(2)
プレゼンテーションのスキル	(2)	グローバリゼーションとジェンダー	(2)
ディスカッションのスキル	(2)	ジェンダー＆セクシュアリティ入門	(2)
健康・スポーツ論	(2)	プロジェクトで学ぶ	(1)
スポーツ実習	(1)	デザインと表現	(2)
情報リテラシー基礎	(2)	デザイン概論	(2)
情報リテラシー：コンピュータサイエンス入門	(2)	ことばとデザイン	(2)
情報リテラシー：データサイエンス入門	(2)	美術芸術論	(2)
情報科学：コンピュータと社会	(2)	ファッションデザイン論	(2)
情報科学：ソフトウェアとビジネス	(2)	メディア・デザイン	(2)
情報とメディアのリテラシー	(2)	読書とメディア	(2)
ジェンダーと教育の歴史	(2)	コピーライティング演習	(2)

第2編 大学（大学学則）

住空間デザイン	(2)	ボランティア活動（長期）	(6)
都市生活の空間デザイン	(2)	市民活動の役割と意義	(2)
キャリア形成の基礎	(2)	今年の一冊	(2)
キャリア形成の意義	(2)	科学技術入門	(2)
キャリア形成の実際	(2)	数学の基礎	(2)
キャリア形成の諸問題	(2)	生命科学と倫理	(2)
キャリア実習（短期インターンシップ）	(1)	日本国憲法	(2)
キャリア実習（短期就業体験）	(1)	哲学A	(2)
キャリア実習（長期インターンシップ）	(2)	哲学B	(2)
キャリア実習（長期就業体験）	(2)	心理学	(2)
ボランティア活動（短期）	(1)	青年心理	(2)
ボランティア活動（中期）	(2)	プロジェクト演習	(1)

D 語学科目

2024年度以前入学者

英語 s（読む・書く）	(1)	英語（Pronunciation:Basic）	(1)
英語 s（聞く・話す）	(1)	英語e（Songs and Poems）	(1)
英語 i（分析・理解）	(2)	英語e（Special Topic）	(1)
英語 i（発信・表現）	(2)	英語e（Speech and Debate）	(1)
英語 i（プロジェクト）	(1)	英語e（TOEFL-iBT Preparation ）	(1)
英語 s（読む・書く）	(1)	英語e（TOEFL-iBT Preparation : Listening/Speaking）	(1)
英語 s（聞く・話す）	(1)	英語e（TOEFL-iBT Preparation : Reading/Writing）	(1)
英語 i（分析・理解）	(2)	英語e（TOEIC Preparation ）	(1)
英語 i（発信・表現）	(2)	英語e（TOEIC Preparation :Listening）	(1)
英語 i（プロジェクト）	(1)	英語e（TOEIC Preparation :Reading）	(1)
英語 s（読む・書く）	(1)	英語e（TOEIC Preparation ）	(1)
英語 s（聞く・話す）	(1)	英語e（Vocabulary）	(1)
英語 i（分析・理解）	(2)	英語e（Writing Skills）	(1)
英語 i（発信・表現）	(2)	海外語学実習（アメリカ）	(2)
英語 i（プロジェクト）	(1)	海外語学実習（イギリス）	(2)
英語e（Academic Listening）	(1)	海外語学実習（カナダ）	(2)
英語e（Academic Reading）	(1)	フランス語（入門）	(1)
英語e（Academic Reading:Advanced）	(1)	フランス語 i（文法）	(3)
英語e（Business Communication）	(1)	フランス語 i（読む1）	(1)
英語e（Conversation Skills:Basic）	(1)	フランス語 s（文法）	(1)
英語e（Conversation Skills:Advanced）	(1)	フランス語 s（読む）	(1)
英語e（Creative Writing）	(1)	フランス語 i（文法）	(2)
英語e（Discussion and Debate）	(1)	フランス語 i（読む）	(1)
英語e（EIKEN Grade 2 Preparation）	(1)	フランス語 i（話す）	(1)
英語e（EIKEN Grade Pre-1 Preparation）	(1)	フランス語 i（書く）	(1)
英語e（English through Movies）	(1)	フランス語 i（LL）	(1)
英語e（English through Music:Basic）	(1)	フランス語 s（文法）	(1)
英語e（Extensive Reading）	(1)	フランス語 s（読む）	(1)
英語e（Grammar:Basic）	(1)	フランス語 s（話す）	(1)
英語e（IELTS Preparation ）	(1)	フランス語 s（LL）	(1)
英語e（IELTS Preparation ）	(1)	フランス語 i（読む1）	(1)
英語e（News and Views）	(1)	フランス語 i（読む2）	(1)
英語e（Pre-Study Abroad: Basic）	(1)	フランス語 i（話す）	(1)
		フランス語 i（書く）	(1)

第2編 大学(大学学則)

フランス語 i (LL)	(1)	スペイン語 s (文法)	(1)
フランス語 s (読む)	(1)	スペイン語 s (読む)	(1)
フランス語 s (話す)	(1)	スペイン語 i (文法)	(2)
フランス語 s (LL)	(1)	スペイン語 i (読む)	(1)
フランス語 i (読む)	(1)	スペイン語 i (話す)	(1)
フランス語 i (話す)	(1)	スペイン語 i (書く)	(1)
フランス語 i (書く)	(1)	スペイン語 i (LL)	(1)
フランス語 i (LL)	(1)	スペイン語 s (文法)	(1)
フランス語 i (総合)	(1)	スペイン語 s (読む)	(1)
フランス語 i (読む)	(1)	スペイン語 s (話す)	(1)
フランス語 i (話す)	(1)	スペイン語 s (LL)	(1)
フランス語 i (書く)	(1)	スペイン語 i (読む1)	(1)
フランス語 i (LL)	(1)	スペイン語 i (読む2)	(1)
フランス語 i (総合)	(1)	スペイン語 i (話す)	(1)
海外語学実習(フランス語)	(2)	スペイン語 i (書く)	(1)
ドイツ語 (入門)	(1)	スペイン語 i (LL)	(1)
ドイツ語 i (文法)	(3)	スペイン語 s (読む)	(1)
ドイツ語 i (読む1)	(1)	スペイン語 s (話す)	(1)
ドイツ語 s (文法)	(1)	スペイン語 s (LL)	(1)
ドイツ語 s (読む)	(1)	スペイン語 i (読む)	(1)
ドイツ語 i (文法)	(2)	スペイン語 i (話す)	(1)
ドイツ語 i (読む)	(1)	スペイン語 i (書く)	(1)
ドイツ語 i (話す)	(1)	スペイン語 i (LL)	(1)
ドイツ語 i (書く)	(1)	スペイン語 i (総合)	(1)
ドイツ語 i (LL)	(1)	スペイン語 i (読む)	(1)
ドイツ語 s (文法)	(1)	スペイン語 i (話す)	(1)
ドイツ語 s (読む)	(1)	スペイン語 i (書く)	(1)
ドイツ語 s (話す)	(1)	スペイン語 i (LL)	(1)
ドイツ語 s (LL)	(1)	スペイン語 i (総合)	(1)
ドイツ語 i (読む1)	(1)	海外語学実習(スペイン語)	(2)
ドイツ語 i (読む2)	(1)	中国語 (入門)	(1)
ドイツ語 i (話す)	(1)	中国語 i (文法)	(3)
ドイツ語 i (書く)	(1)	中国語 i (読む1)	(1)
ドイツ語 i (LL)	(1)	中国語 s (文法)	(1)
ドイツ語 s (読む)	(1)	中国語 s (読む)	(1)
ドイツ語 s (話す)	(1)	中国語 i (文法)	(2)
ドイツ語 s (LL)	(1)	中国語 i (読む)	(1)
ドイツ語 i (読む)	(1)	中国語 i (話す)	(1)
ドイツ語 i (話す)	(1)	中国語 i (書く)	(1)
ドイツ語 i (書く)	(1)	中国語 i (LL)	(1)
ドイツ語 i (LL)	(1)	中国語 s (文法)	(1)
ドイツ語 i (総合)	(1)	中国語 s (読む)	(1)
ドイツ語 i (読む)	(1)	中国語 s (話す)	(1)
ドイツ語 i (話す)	(1)	中国語 s (LL)	(1)
ドイツ語 i (書く)	(1)	中国語 i (読む1)	(1)
ドイツ語 i (LL)	(1)	中国語 i (読む2)	(1)
ドイツ語 i (総合)	(1)	中国語 i (話す)	(1)
海外語学実習(ドイツ語)	(2)	中国語 i (書く)	(1)
スペイン語 (入門)	(1)	中国語 i (LL)	(1)
スペイン語 i (文法)	(3)	中国語 s (読む)	(1)
スペイン語 i (読む1)	(1)	中国語 s (話す)	(1)

第2編 大学（大学学則）

中国語 s (L L)	(1)	朝鮮語 s (読む)	(1)
中国語 i (読む)	(1)	朝鮮語 s (話す)	(1)
中国語 i (話す)	(1)	朝鮮語 s (L L)	(1)
中国語 i (書く)	(1)	朝鮮語 i (読む)	(1)
中国語 i (L L)	(1)	朝鮮語 i (話す)	(1)
中国語 i (総合)	(1)	朝鮮語 i (書く)	(1)
中国語 i (読む)	(1)	朝鮮語 i (L L)	(1)
中国語 i (話す)	(1)	朝鮮語 i (総合)	(1)
中国語 i (書く)	(1)	朝鮮語 i (読む)	(1)
中国語 i (L L)	(1)	朝鮮語 i (話す)	(1)
中国語 i (総合)	(1)	朝鮮語 i (書く)	(1)
海外語学実習 (中国語)	(2)	朝鮮語 i (L L)	(1)
朝鮮語 (入門)	(1)	朝鮮語 i (総合)	(1)
朝鮮語 i (文法)	(3)	海外語学実習 (朝鮮語)	(2)
朝鮮語 i (読む 1)	(1)	古典ギリシア語 (文法)	(1)
朝鮮語 s (文法)	(1)	古典ギリシア語 (文法)	(1)
朝鮮語 s (読む)	(1)	古典ギリシア語 (読む)	(1)
朝鮮語 i (文法)	(2)	古典ギリシア語 (読む)	(1)
朝鮮語 i (読む)	(1)	ラテン語 (文法)	(1)
朝鮮語 i (話す)	(1)	ラテン語 (文法)	(1)
朝鮮語 i (書く)	(1)	ラテン語 (読む)	(1)
朝鮮語 i (L L)	(1)	ラテン語 (読む)	(1)
朝鮮語 s (文法)	(1)	イタリア語 (基礎)	(1)
朝鮮語 s (読む)	(1)	イタリア語 (文法)	(1)
朝鮮語 s (話す)	(1)	イタリア語 (読む)	(1)
朝鮮語 s (L L)	(1)	イタリア語 (文法)	(1)
朝鮮語 i (読む 1)	(1)	イタリア語 (読む)	(1)
朝鮮語 i (読む 2)	(1)	イタリア語 (読む)	(1)
朝鮮語 i (話す)	(1)	イタリア語 (話す)	(1)
朝鮮語 i (書く)	(1)	日本語	(1)
朝鮮語 i (L L)	(1)	日本語	(1)

2025年度以降入学者

英語 s (聞く・話す)	(1)	英語e (Academic Reading)	(1)
英語 s (読む・書く)	(1)	英語e (Discussion and Debate)	(1)
英語 s (聞く・話す)	(1)	英語e (English through Movies)	(1)
英語 s (読む・書く)	(1)	英語e (TOEFL-iBT Preparation)	(1)
英語 s (聞く・話す)	(1)	英語e (TOEIC Preparation)	(1)
英語 s (読む・書く)	(1)	英語e (TOEIC Preparation)	(1)
英語 s (聞く・話す)	(1)	英語e (Academic Reading: Advanced)	(1)
英語 s (読む・書く)	(1)	英語e (Conversation Skills: Basic)	(1)
英語 (分析・理解)	(2)	英語e (News and Views)	(1)
英語 (発信・表現)	(2)	英語e (Creative Writing)	(1)
英語 (プロジェクト)	(1)	英語e (Academic Listening)	(1)
英語 (分析・理解)	(2)	英語e (Conversation Skills: Advanced)	(1)
英語 (発信・表現)	(2)	英語e (English through Music: Basic)	(1)
英語 (プロジェクト)	(1)	英語e (Grammar: Basic)	(1)
英語 (分析・理解)	(2)	英語e (Business Communication)	(1)
英語 (発信・表現)	(2)	英語e (Speech and Debate)	(1)
英語 (プロジェクト)	(1)	英語e (TOEIC Preparation : Listening)	(1)
英語 (プロジェクト)	(1)	英語e (TOEIC Preparation : Reading)	(1)

第2編 大学(大学学則)

英語e (Pronunciation: Basic)	(1)	ドイツ語 s (理解)	(1)
英語e (Writing Skills)	(1)	ドイツ語 s (表現)	(1)
英語e (Vocabulary)	(1)	ドイツ語 s (文法)	(1)
英語e (TOEFL-iBT Preparation : Reading/Writing)	(1)	ドイツ語 s (理解)	(1)
英語e (TOEFL-iBT Preparation : Listening/Speaking)	(1)	ドイツ語 s (表現)	(1)
英語e (Extensive Reading)	(1)	ドイツ語 (文法)	(3)
英語e (Special Topic)	(1)	ドイツ語 (理解)	(1)
英語e (IELTS Preparation)	(1)	ドイツ語 (表現)	(1)
英語e (IELTS Preparation)	(1)	ドイツ語 (総合)	(1)
英語e (Songs and Poems)	(1)	ドイツ語 (文法)	(2)
英語e (EIKEN Grade 2 Preparation)	(1)	ドイツ語 (理解)	(1)
英語e (EIKEN Grade Pre-1 Preparation)	(1)	ドイツ語 (表現)	(1)
英語e (Pre-Study Abroad: Basic)	(1)	ドイツ語 (総合)	(1)
海外語学実習 (アメリカ)	(2)	ドイツ語 (文法)	(2)
海外語学実習 (イギリス)	(2)	ドイツ語 (理解)	(1)
海外語学実習 (カナダ)	(2)	ドイツ語 (表現)	(1)
フランス語 (入門)	(1)	ドイツ語 (総合)	(1)
フランス語 s (文法)	(1)	ドイツ語 (理解)	(1)
フランス語 s (理解)	(1)	ドイツ語 (表現)	(1)
フランス語 s (表現)	(1)	ドイツ語 (総合)	(1)
フランス語 s (文法)	(1)	ドイツ語 (理解)	(1)
フランス語 s (理解)	(1)	ドイツ語 (表現)	(1)
フランス語 s (表現)	(1)	ドイツ語 (総合)	(1)
フランス語 s (文法)	(1)	海外語学実習 (ドイツ語)	(2)
フランス語 s (理解)	(1)	スペイン語 (入門)	(1)
フランス語 s (表現)	(1)	スペイン語 s (文法)	(1)
フランス語 (文法)	(3)	スペイン語 s (理解)	(1)
フランス語 (理解)	(1)	スペイン語 s (表現)	(1)
フランス語 (表現)	(1)	スペイン語 s (文法)	(1)
フランス語 (総合)	(1)	スペイン語 s (理解)	(1)
フランス語 (文法)	(2)	スペイン語 s (表現)	(1)
フランス語 (理解)	(1)	スペイン語 s (文法)	(1)
フランス語 (表現)	(1)	スペイン語 s (理解)	(1)
フランス語 (総合)	(1)	スペイン語 s (表現)	(1)
フランス語 (文法)	(2)	スペイン語 (文法)	(3)
フランス語 (理解)	(1)	スペイン語 (理解)	(1)
フランス語 (表現)	(1)	スペイン語 (表現)	(1)
フランス語 (総合)	(1)	スペイン語 (総合)	(1)
フランス語 (理解)	(1)	スペイン語 (文法)	(2)
フランス語 (表現)	(1)	スペイン語 (理解)	(1)
フランス語 (総合)	(1)	スペイン語 (表現)	(1)
フランス語 (理解)	(1)	スペイン語 (総合)	(1)
フランス語 (表現)	(1)	スペイン語 (文法)	(2)
フランス語 (総合)	(1)	スペイン語 (理解)	(1)
海外語学実習 (フランス語)	(2)	スペイン語 (表現)	(1)
ドイツ語 (入門)	(1)	スペイン語 (総合)	(1)
ドイツ語 s (文法)	(1)	スペイン語 (理解)	(1)
ドイツ語 s (理解)	(1)	スペイン語 (表現)	(1)
ドイツ語 s (表現)	(1)	スペイン語 (総合)	(1)
ドイツ語 s (文法)	(1)	スペイン語 (理解)	(1)

第2編 大学（大学学則）

スペイン語（表現）	(1)	韓国語 s（文法）	(1)
スペイン語（総合）	(1)	韓国語 s（理解）	(1)
海外語学実習（スペイン語）	(2)	韓国語 s（表現）	(1)
中国語（入門）	(1)	韓国語（文法）	(3)
中国語 s（文法）	(1)	韓国語（理解）	(1)
中国語 s（理解）	(1)	韓国語（表現）	(1)
中国語 s（表現）	(1)	韓国語（総合）	(1)
中国語 s（文法）	(1)	韓国語（文法）	(2)
中国語 s（理解）	(1)	韓国語（理解）	(1)
中国語 s（表現）	(1)	韓国語（表現）	(1)
中国語 s（文法）	(1)	韓国語（総合）	(1)
中国語 s（理解）	(1)	韓国語（文法）	(2)
中国語 s（表現）	(1)	韓国語（理解）	(1)
中国語（文法）	(3)	韓国語（表現）	(1)
中国語（理解）	(1)	韓国語（総合）	(1)
中国語（表現）	(1)	韓国語（理解）	(1)
中国語（総合）	(1)	韓国語（表現）	(1)
中国語（文法）	(2)	韓国語（総合）	(1)
中国語（理解）	(1)	韓国語（理解）	(1)
中国語（表現）	(1)	韓国語（表現）	(1)
中国語（総合）	(1)	韓国語（総合）	(1)
中国語（文法）	(2)	海外語学実習（韓国語）	(2)
中国語（理解）	(1)	イタリア語（基礎）	(1)
中国語（表現）	(1)	イタリア語（文法）	(1)
中国語（総合）	(1)	イタリア語（理解）	(1)
中国語（理解）	(1)	イタリア語（理解）	(1)
中国語（表現）	(1)	イタリア語（表現）	(1)
中国語（総合）	(1)	イタリア語（理解）	(1)
中国語（理解）	(1)	イタリア語（表現）	(1)
中国語（表現）	(1)	ラテン語（文法）	(1)
中国語（総合）	(1)	ラテン語（文法）	(1)
海外語学実習（中国語）	(2)	ラテン語（読む）	(1)
韓国語（入門）	(1)	ラテン語（読む）	(1)
韓国語 s（文法）	(1)	古典ギリシア語（文法）	(1)
韓国語 s（理解）	(1)	古典ギリシア語（文法）	(1)
韓国語 s（表現）	(1)	古典ギリシア語（読む）	(1)
韓国語 s（文法）	(1)	古典ギリシア語（読む）	(1)
韓国語 s（理解）	(1)	日本語	(1)
韓国語 s（表現）	(1)	日本語	(1)

E PA科目

PAヴォーカル	(2)	PAアンサンブル1	(1)
PA鍵盤楽器	(2)	PAアンサンブル2	(2)
PA弦楽器	(2)	PA舞台芸術1	(1)
PA管楽器	(2)	PA舞台芸術2	(2)
PA打楽器	(2)	PA舞台芸術3	(3)
PA制作	(2)		

第2編 大学（大学学則）

別表第2 - 1（第3条関係）

専門科目

（ ）内は単位数

A 文学部英語英米文学科

R & R（入門ゼミ）	(1)	アメリカの文化 2	(2)
英米文化基礎ゼミ	(1)	アメリカの文化 3	(2)
イギリス研究入門 1	(2)	現代アメリカ論 1	(2)
イギリス研究入門 2	(2)	現代アメリカ論 2	(2)
イギリス研究入門 3	(2)	カナダの社会	(2)
イギリス研究入門 4	(2)	オーストラリアの社会と文化 1	(2)
イギリス研究入門 5	(2)	オーストラリアの社会と文化 2	(2)
アメリカ研究入門 1	(2)	イギリス文学史	(2)
アメリカ研究入門 2	(2)	イギリス詩 1	(2)
アメリカ研究入門 3	(2)	イギリス詩 2	(2)
アメリカ研究入門 4	(2)	イギリス詩 3	(2)
英語学研究入門	(2)	イギリス演劇 1	(2)
英語学研究入門 2	(2)	イギリス演劇 2	(2)
英米文化専門講読 1	(2)	イギリス演劇 3	(2)
英米文化専門講読 2	(2)	イギリス小説 1	(2)
英米文化専門講読 3	(2)	イギリス小説 2	(2)
英米文化専門講読 4	(2)	イギリス小説 3	(2)
英米文化専門講読 5	(2)	イギリス伝承文学 1	(2)
英米文化専門講読 6	(2)	イギリス伝承文学 2	(2)
英米文化専門講読 7	(2)	イギリス伝承文学 3	(2)
英米文化専門講読 8	(2)	イギリス伝承文学 4	(2)
英米文化専門講読 9	(2)	イギリス文化史	(2)
英米文化専門講読 10	(2)	イギリスの芸術	(2)
英米文化専門講読 11	(2)	アメリカ文学史	(2)
Academic Writing	(2)	アメリカ詩	(2)
Global Issues 1	(2)	アメリカ演劇	(2)
Global Issues 2	(2)	アメリカ小説 1	(2)
Business Communication	(2)	アメリカ小説 2	(2)
Literature and Culture 1	(2)	アメリカ小説 3	(2)
Literature and Culture 2	(2)	キリスト教と英米文学 1	(2)
English for Children 1	(2)	キリスト教と英米文学 2	(2)
English for Children 2	(2)	英米文化特論 1	(2)
英米文化発展ゼミ	(2)	英米文化特論 2	(2)
イギリス史 1	(2)	英米文化特論 3	(2)
イギリス史 2	(2)	英米文化特論 4	(2)
イギリス史	(2)	英米文化特論 5	(2)
イギリスの政治と社会 1	(2)	英米文化特論 6	(2)
イギリスの政治と社会 2	(2)	英米芸術史	(2)
イギリスの思想と宗教	(2)	英語圏の映画と映像	(2)
イギリスの文化	(2)	英語圏の映画と映像 2	(2)
現代イギリス論	(2)	英語圏の映画と映像 3	(2)
アメリカ史	(2)	英語圏の映画と映像 4	(2)
アメリカ社会史	(2)	英語の歴史	(2)
アメリカの政治	(2)	英語学	(2)
アメリカの外交	(2)	第二言語習得論から見る英語学習	(2)
アメリカの思想と宗教	(2)	英語のナラティブ分析	(2)
アメリカの文化 1	(2)	英語と社会・文化	(2)

第2編 大学（大学学則）

英語と社会・文化 2	(2)	Academic Skills 4	(2)
日英語の発想と表現	(2)	Academic Skills 5	(2)
Thought and Expression in English	(2)	Academic Skills 6	(2)
英語学特論 1	(2)	Academic Skills 7	(2)
英語学特論 2	(2)	英語集中セミナー 1	(1)
英語学特論 3	(2)	英語集中セミナー 2	(1)
Pronunciation Clinic	(2)	英米文化専門ゼミ A	(1)
翻訳技法	(2)	英米文化専門ゼミ B	(1)
通訳技法	(2)	英米文化卒論ゼミ A	(1)
同時通訳技法 1	(2)	英米文化卒論ゼミ B	(1)
同時通訳技法 2	(2)	卒業論文	(6)
Focus on Listening and Reading	(2)	Summer Abroad (UK)	(2)
Writing Workshop	(2)	Summer Abroad (US)	(2)
Academic Skills	(2)	Spring Abroad	(2)
Academic Skills 1	(2)	Field Study 1	(1)
Academic Skills 2	(2)	Field Study 2	(1)
Academic Skills 3	(2)		

B 文学部日本語日本文学科

R & R (入門ゼミ)	(1)	日本語日本文学プレ専門ゼミ 8	(2)
日本語日本文学基礎ゼミ	(1)	日本語日本文学プレ専門ゼミ 9	(2)
日本語学概論 A	(2)	日本語文法研究の方法	(2)
日本語学概論 B	(2)	日本語語彙研究の方法	(2)
日本語の歴史 A	(2)	日本語音声研究の方法	(2)
日本語の歴史 B	(2)	方言研究の方法	(2)
日本語教育学概論 A	(2)	日本語教育研究の方法	(2)
日本語教育学概論 B	(2)	上代文学研究の方法	(2)
日本古典文学史 (古代)	(2)	中古文学研究の方法	(2)
日本古典文学史 (中近世)	(2)	中世文学研究の方法	(2)
日本近代文学史 A	(2)	近世文学研究の方法	(2)
日本近代文学史 B	(2)	近現代文学研究の方法	(2)
漢文学概説 A	(2)	漢文学研究の方法	(2)
漢文学概説 B	(2)	日本近現代文学演習	(2)
日本・アジア文化表現入門	(2)	日本近現代文学特講	(2)
東アジアの文字と文化	(2)	日本語学特講	(2)
言語学概説	(2)	日本語の形態と構文	(2)
基礎論文演習 (文章表現)	(1)	日本語の意味と語彙	(2)
書誌学・くずし字の基礎	(2)	日本語の音声とアクセント	(2)
古典読解の基礎	(2)	日本語の文体と語法	(2)
漢文読解の基礎	(2)	日本の漢字と国語辞書	(2)
文学理論の基礎	(2)	日本語の敬語	(2)
演劇論の基礎	(2)	方言と社会言語学	(2)
日本史の基礎 (古代～近世)	(2)	日本語自然言語処理入門	(2)
日本史の基礎 (近現代)	(2)	日本語教育文法	(2)
日本語日本文学プレ専門ゼミ 1	(2)	日本語学習のコースデザイン	(2)
日本語日本文学プレ専門ゼミ 2	(2)	日本語教育の教材分析	(2)
日本語日本文学プレ専門ゼミ 3	(2)	日本語教授法 A	(2)
日本語日本文学プレ専門ゼミ 4	(2)	日本語教授法 B	(2)
日本語日本文学プレ専門ゼミ 5	(2)	音声教育法	(2)
日本語日本文学プレ専門ゼミ 6	(2)	日本語教育のための異文化理解	(2)
日本語日本文学プレ専門ゼミ 7	(2)	第二言語習得論	(2)

第2編 大学（大学学則）

地域日本語教育実習	(2)	漢詩漢文の世界	(2)
年少者日本語教育実習	(2)	日中比較言語・文学の世界	(2)
日本語教育実習 1	(1)	書道芸術の世界	(2)
日本語教育実習 2	(2)	近代日本語の世界	(2)
神話の世界	(2)	書道	(1)
古代和歌の世界	(2)	文字と文学	(2)
物語の世界	(2)	文学と子ども	(2)
日記の世界	(2)	地域文化を読み解く	(2)
随筆の世界	(2)	民俗文化を読み解く	(2)
軍記の世界	(2)	絵巻・絵図を読み解く	(2)
説話の世界	(2)	映画・映像を読み解く	(2)
中世和歌の世界	(2)	マンガ・アニメ文化を読み解く	(2)
近世小説の世界	(2)	日本伝統文化を学ぶ	(2)
俳諧の世界	(2)	小説創作を学ぶ	(2)
近代小説の世界	(2)	現代詩創作を学ぶ	(2)
現代小説の世界	(2)	短歌・俳句創作を学ぶ	(2)
近現代詩歌の世界	(2)	報道文を学ぶ	(2)
同時代文学の世界	(2)	編集を学ぶ	(2)
日本伝統文化論	(2)	朗読・アナウンスを学ぶ	(2)
能・狂言の世界	(2)	世界の中の日本文学を学ぶ	(2)
歌舞伎の世界	(2)	日本語日本文学専門ゼミ A	(1)
浄瑠璃の世界	(2)	日本語日本文学専門ゼミ B	(1)
寄席芸能の世界	(2)	日本語日本文学卒論ゼミ A	(1)
少女歌劇の世界	(2)	日本語日本文学卒論ゼミ B	(1)
近現代演劇の世界	(2)	卒業論文	(6)
漢字の世界	(2)		

C 文学部コミュニケーション学科

R & R(入門ゼミ)	(1)	コミュニケーション学探求 2	(2)
コミュニケーション基礎ゼミ	(1)	コミュニケーション学探求 3	(2)
言語コミュニケーション概論	(2)	コミュニケーション学探求 4	(2)
社会コミュニケーション概論	(2)	コミュニケーション学探求 5	(2)
文化コミュニケーション概論	(2)	コミュニケーション学探求 6	(2)
心理コミュニケーション概論 A	(2)	コミュニケーション学探求 7	(2)
心理コミュニケーション概論 B	(2)	コミュニケーション学探求 8	(2)
コミュニケーション研究方法の全体像	(2)	コミュニケーション学探求 10	(2)
心理学実験演習	(4)	コミュニケーション学探求 11	(2)
精神疾患とその治療	(2)	コミュニケーション学探求 12	(2)
心理学概論 A	(2)	コミュニケーション学探求 13	(2)
心理学概論 B	(2)	コミュニケーション学探求 14	(2)
心理的アセスメント	(2)	コミュニケーション学探求 15	(2)
臨床心理学概論	(2)	セクシュアリティと社会 A	(2)
心理学的支援法	(2)	セクシュアリティと社会 B	(2)
社会・心理調査の方法	(2)	対人コミュニケーションの心理学	(2)
インタビュー・面接のスキル	(2)	ことばと記号のコミュニケーション	(2)
話しことばを分析する	(2)	言語行動学	(2)
文献・情報の集め方	(2)	社会的行為としてのコミュニケーション	(2)
データを数量から読み解く	(2)	マスコミュニケーションと情報社会	(2)
フィールドワークとエスノグラフィー	(2)	政治コミュニケーション概説	(2)
フィールドワークとライフヒストリー分析を学ぶ	(2)	組織の中の人間関係と心理	(2)
テキストの批判的解釈のための方法	(2)	身体としぐさの心理学	(2)
コミュニケーション学探求 1	(2)	英語学研究入門	(2)

第2編 大学（大学学則）

日本語学概論A	(2)	共生のフィールドワーク	(4)
日本語学概論B	(2)	メディアリテラシーを身につける	(2)
日本語の歴史A	(2)	放送文化と制度を考える	(2)
日本語の歴史B	(2)	新聞・出版ワークショップ	(2)
日本語の文体と語法	(2)	ジャーナリズム論	(2)
日本語の形態と構文	(2)	ケアメディア論	(2)
言語行動とコミュニケーション	(2)	物語論	(2)
日本語音声とコミュニケーション	(2)	絵画分析	(2)
歴史言語コミュニケーション概説	(2)	物語の力を分析する	(2)
多文化・多言語社会を考える	(2)	ゲームの魅力を分析する	(2)
クレオール文化の考え方・読み方	(2)	日本語の意味と語彙	(2)
先住民族の言語・文化と共生	(2)	日本語の敬語	(2)
コミック『ゴールデンカムイ』で学ぶ多文化共生	(2)	インターネットセキュリティ	(2)
ことばと個人・社会の因果関係を探る	(2)	行動科学のためのデータ解析（SPSSによる統計・解析）	(2)
英語学特論1	(2)	コンピュータによる調査データの解析A	(2)
異文化のコミュニケーション	(2)	コンピュータによる調査データの解析B	(2)
異文化コミュニケーションの理論と実践	(2)	Excelによるデータ分析（ベイズ推定による予測）	(2)
文化の心理学	(2)	PythonとC#による日本語自然言語処理プログラミング	(2)
これからの多文化教育	(2)	原因と結果のデータ分析（AMOSによる共分散構造分析）	(2)
アジアとの出会いと異文化体験	(2)	CM/アニメ/ドラマの映像分析	(2)
多文化社会の人間学	(2)	UnityとC#によるゲームプログラミング演習	(2)
多文化体験としての都市フィールドワーク	(2)	Go言語によるネットアプリ制作演習	(2)
異文化トレーニング	(2)	文献・情報にアクセスする	(2)
生活支援論	(2)	映像取材A	(2)
コミュニティ通訳論（基礎）	(2)	映像取材B	(2)
コミュニティ通訳論（実践）	(2)	マルチメディア制作（CG・DTP編集）	(2)
ディアスポラ（離散）の思想	(2)	テキスト分析（Web上データの潜在意味分析）	(2)
ことばのフィールドワーク	(2)	マルチメディア制作（情報デザイン）A	(2)
エスニックマイノリティーの問題を考えるA	(2)	マルチメディア制作（情報デザイン）B	(2)
エスニックマイノリティーの問題を考えるB	(2)	プレゼンテーションの方法A	(2)
欧米文化表現入門	(2)	プレゼンテーションの方法B	(2)
共生社会論	(2)	取材と記事のレッスン	(2)
舞踊の文化人類学	(2)	編集デザインスキル	(2)
グローバル化する人の移動の社会学	(2)	編集的思考入門	(2)
子どもの発達とこれからの教育問題	(2)	出版編集制作	(2)
これからの家族問題A	(2)	ディベートと自己主張	(2)
これからの家族問題B	(2)	ビジネス・コミュニケーションスキル	(2)
健康・医療におけるコミュニケーションの心理と諸問題	(2)	身体表現論	(2)
H I V・難病問題と向き合う	(2)	アジアの身体表現	(2)
P T S Dと被害者の心理・グリーフワーク	(2)	ファッション文化	(2)
ジェンダー問題と男女共同参画社会	(2)	スポーツ文化	(2)
障害者の心理学と共生社会	(2)	現代人と宗教	(2)
エイジングの心理学と高齢社会	(2)	映画・映像文化	(2)
「日本におけるアジア」とのネットワークキング	(2)	広告とマーケティング	(2)
ファシリテーターの理論と実践A	(2)	英語と社会・文化	(2)
ファシリテーターの理論と実践B	(2)	英語と社会・文化2	(2)
ファシリテーターの理論と実践	(2)	コミュニケーション専門ゼミ A	(1)
視覚障害の理解と点字の技法A	(2)	コミュニケーション専門ゼミ B	(1)
視覚障害の理解と点字の技法B	(2)	コミュニケーション専門ゼミ A	(1)
聴覚障害の理解と手話の技法A	(2)	コミュニケーション専門ゼミ B	(1)
聴覚障害の理解と手話の技法B	(2)	卒業論文・卒業制作	(6)

第2編 大学(大学学則)

D 音楽学部音楽芸術学科
2018年度以前入学者

合唱 A	(1)	公開講座・コンサート鑑賞	(2)
合唱 B	(1)	バレエの歴史	(2)
基礎声楽A	(1)	ヨーロッパの劇場と文化	(2)
基礎声楽B	(1)	現代音楽レパートリー	(2)
基礎ピアノA	(1)	音楽とプログラミング	(2)
基礎ピアノB	(1)	デザイン思考	(2)
和声A	(2)	アート思考	(2)
和声B	(2)	アニメ・ゲーム音楽制作	(2)
ソルフェージュA	(1)	アート・マネージメント	(2)
ソルフェージュB	(1)	音楽とデザイン	(2)
賛美歌学	(2)	音楽ビジネス	(2)
キリスト教音楽概論	(2)	ステージパフォーマンス・ワークショップ	(2)
賛美歌を作ろう	(2)	身体表現ワークショップ1	(2)
キリスト教音楽実践A	(2)	身体表現ワークショップ2	(2)
キリスト教音楽実践B	(2)	番組制作ワークショップ	(2)
キリスト教音楽研究A	(2)	音響機器ワークショップ	(2)
キリスト教音楽研究B	(2)	録音実技ワークショップ	(2)
コード理論A	(2)	音楽プロダクトワークショップ	(2)
コード理論B	(2)	アナウンス・朗読	(2)
伴奏法A	(1)	声の仕事	(2)
伴奏法B	(1)	ミュージカルレパートリー・ワークショップ	(2)
旋律学	(2)	作曲を楽しもうA	(2)
共演芸術1A	(2)	作曲を楽しもうB	(2)
共演芸術1B	(2)	ポップスアレンジ	(2)
共演芸術2A	(2)	バンドを楽しもうA	(2)
共演芸術2B	(2)	バンドを楽しもうB	(2)
即興演奏ワークショップ	(2)	アンサンブルを楽しもう	(2)
演奏表現ワークショップ(クラシック)	(2)	ソングライティング	(2)
ジャズ・ヴォーカル・ワークショップ	(2)	コーラスリーダー・ワークショップ	(2)
合唱 A	(1)	音楽起業ワークショップ	(2)
合唱 B	(1)	英語で音楽ビジネス	(2)
合唱 A	(1)	合奏	(1)
合唱 B	(1)	音楽と身体表現	(2)
身体の科学	(2)	音楽と脳科学	(2)
英語で音楽理論	(2)	指揮法	(2)
ポピュラー音楽理論	(2)	音楽ジャーナリズム	(2)
邦楽1	(1)	医療と音楽	(2)
邦楽2	(1)	心と音楽	(2)
編曲のテクニック	(2)	音楽療法1	(2)
西洋音楽通史	(4)	音楽療法2	(2)
西洋音楽と女性	(2)	ミュージカル入門	(2)
日本音楽通史	(2)	Internet of Things	(2)
諸民族の音楽	(2)	Digital Fabrication Lab.	(2)
文学と音楽	(2)	基礎演習	(1)
ドイツ文学と音楽	(2)	応用演習	(1)
吹奏楽概論	(2)	専門ゼミ	(1)
世界のポピュラー音楽	(2)	専門ゼミ	(1)
音楽スペシャル講義	(2)	専門ゼミ	(1)
ポピュラー音楽史	(2)	専門ゼミ	(1)

第2編 大学（大学学則）

学外公開發表	(1)	PA 声楽アンサンブル（アドバンスト）	(1)
学外公開發表	(1)	PA オペラ	(1)
公開發表・公開演奏	(1)	PA Digital Fabrication Lab.	(1)
海外音楽研修	(2)	PA Media Art	(1)
卒業プロジェクト	(6)	PA Moving Images, Movies	(1)
PA 教職実技（声楽）	(1)	PA Internet of Things	(1)
PA 教職実技（ピアノ）	(1)	PA AI Technology and Music	(1)
PA 教職実技（伴奏・即興演奏）	(1)	PA Digital Technology Marketing	(1)
PA 教職実技（聴音・音楽理論）	(1)	PA ドラム	(1)
PA 教職実技（初見視唱・初見視奏）	(1)	PA 副科個人実技	(2)
PA ミュージカル	(1)	PA グループ実技（バレエ1）	(1)
PA キリスト教音楽	(1)	PA グループ実技（バレエ2）	(2)
PA ピアノデュオ	(1)	PA グループ実技（バレエ3）	(3)
PA フルートアンサンブル	(1)	PA グループ実技（ダンス1）	(1)
PA アンサンブル管弦楽	(2)	PA グループ実技（ダンス2）	(2)
PA 室内楽	(1)	PA グループ実技（ダンス3）	(3)
PA 声楽アンサンブル（スタンダード）	(1)		

2019年度以降入学者

合唱 A	(1)	邦楽 2	(1)
合唱 B	(1)	楽曲分析	(2)
基礎声楽 A	(1)	旋律学	(2)
基礎声楽 B	(1)	合奏	(1)
基礎ピアノ A	(1)	演奏表現ワークショップ（クラシック）	(2)
基礎ピアノ B	(1)	西洋音楽通史	(4)
和声 A	(2)	西洋音楽と女性	(2)
和声 B	(2)	日本音楽通史	(2)
ソルフェージュ A	(1)	公開講座・コンサート鑑賞	(2)
ソルフェージュ B	(1)	諸民族の音楽	(2)
コンピュータ音楽制作	(2)	文学と音楽	(2)
音響の基礎	(2)	ドイツ文学と音楽	(2)
映像制作基礎	(2)	吹奏楽概論	(2)
J-POP 音楽論	(2)	世界のポピュラー音楽	(2)
賛美歌学	(2)	音楽スペシャル講義	(2)
賛美歌を作ろう	(2)	ポピュラー音楽史	(2)
キリスト教音楽研究 A	(2)	映画舞台音楽論 1	(2)
キリスト教音楽研究 B	(2)	映画舞台音楽論 2	(2)
キリスト教音楽概論	(2)	バレエの歴史	(2)
キリスト教音楽実践 A	(2)	ヨーロッパの劇場と文化	(2)
キリスト教音楽実践 B	(2)	音響の心理	(2)
コード理論 A	(2)	デザイン思考	(2)
コード理論 B	(2)	アート思考	(2)
伴奏法 A	(1)	音楽とプログラミング	(2)
伴奏法 B	(1)	音楽ジャーナリズム	(2)
合唱 A	(1)	医療と音楽	(2)
合唱 B	(1)	心と音楽	(2)
身体の科学	(2)	音楽療法 1	(2)
英語で音楽理論	(2)	音楽療法 2	(2)
ポピュラー音楽理論	(2)	アニメ・ゲーム音楽制作	(2)
邦楽 1	(1)	アート・マネジメント	(2)

第2編 大学(大学学則)

音楽とデザイン	(2)	P A ピアノデュオ	(1)
音楽ビジネス	(2)	P A アンサンブル弦楽	(1)
ミュージックビデオ制作	(2)	P A フルーツアンサンブル	(1)
ステージパフォーマンス・ワークショップ	(2)	P A アンサンブル管楽	(1)
映像制作応用	(2)	P A アンサンブル管弦楽	(2)
音響機器ワークショップ	(2)	P A 室内楽	(1)
録音実技ワークショップ	(2)	P A ミュージカル	(1)
音楽プロダクトワークショップ	(2)	P A キーボード・インプロヴィゼーション	(1)
アナウンス・朗読	(2)	P A 声楽アンサンブル(スタンダード)	(1)
声の仕事	(2)	P A 声楽アンサンブル(アドバンスト)	(1)
ミュージカルレパートリー・ワークショップ	(2)	P A オペラ	(1)
ポップスアレンジ	(2)	P A Digital Fabrication Lab.	(1)
バンドを楽しもうA	(2)	P A Media Art	(1)
バンドを楽しもうB	(2)	P A Moving Images, Movies	(1)
音楽と身体表現	(2)	P A Internet of Things	(1)
音楽と脳科学	(2)	P A AI Technology and Music	(1)
共演芸術1 A	(2)	P A Digital Technology Marketing	(1)
共演芸術1 B	(2)	P A ドラム	(1)
共演芸術2 A	(2)	P A 個人実技15(声楽)	(1)
共演芸術2 B	(2)	P A 個人実技15(ヴォイストレーニング)	(1)
ジャズ・ヴォーカル・ワークショップ	(2)	P A 個人実技15(伴奏法)	(1)
ソングライティング	(2)	P A 個人実技15(器楽)	(1)
コーラスリーダー・ワークショップ	(2)	P A 個人実技15(室内楽)	(1)
音楽起業ワークショップ	(2)	P A 個人実技15(作編曲)	(1)
英語で音楽ビジネス	(2)	P A 個人実技15(邦楽)	(1)
指揮法	(2)	P A 個人実技15(その他)	(1)
合唱 A	(1)	P A 個人実技30(声楽)	(2)
合唱 B	(1)	P A 個人実技30(ヴォイストレーニング)	(2)
ピアノ指導ワークショップ	(2)	P A 個人実技30(伴奏法)	(2)
リトミック指導ワークショップ	(2)	P A 個人実技30(器楽)	(2)
SNSとマーケティング	(2)	P A 個人実技30(室内楽)	(2)
ミュージカル入門	(2)	P A 個人実技30(作編曲)	(2)
Internet of Things	(2)	P A 個人実技30(邦楽)	(2)
Digital Fabrication Lab.	(2)	P A 個人実技30(その他)	(2)
基礎演習	(1)	P A 個人実技45(声楽)	(3)
応用演習	(1)	P A 個人実技45(ヴォイストレーニング)	(3)
公開発表・公開演奏	(1)	P A 個人実技45(伴奏法)	(3)
専門ゼミ	(1)	P A 個人実技45(器楽)	(3)
専門ゼミ	(1)	P A 個人実技45(室内楽)	(3)
専門ゼミ	(1)	P A 個人実技45(作編曲)	(3)
専門ゼミ	(1)	P A 個人実技45(邦楽)	(3)
卒業プロジェクト	(6)	P A 個人実技45(その他)	(3)
P A 教職実技(声楽)	(1)	P A グループ実技(バレエ1)	(1)
P A 教職実技(ピアノ)	(1)	P A グループ実技(バレエ2)	(2)
P A 教職実技(伴奏・即興演奏)	(1)	P A グループ実技(バレエ3)	(3)
P A 教職実技(聴音・音楽理論)	(1)	P A グループ実技(ダンス1)	(1)
P A 教職実技(初見視唱・初見視奏)	(1)	P A グループ実技(ダンス2)	(2)
P A キリスト教音楽	(1)	P A グループ実技(ダンス3)	(3)

第2編 大学（大学学則）

E 音楽学部演奏学科

2018年度以前入学者

専攻実技（声楽） A	(3)	演奏ボランティア	(1)
専攻実技（声楽） B	(3)	フェリス・レーズ・オ・ステージ [スタンダード]	(2)
専攻実技（声楽） A	(3)	フェリス・レーズ・オ・ステージ [アドヴァンスト]	(3)
専攻実技（声楽） B	(3)	ピアノデュオ	(1)
専攻実技（声楽） A	(3)	フルートアンサンブル	(1)
専攻実技（声楽） B	(3)	アンサンブル管弦楽	(2)
専攻実技（声楽） A	(3)	合唱 A	(1)
専攻実技（声楽） B	(3)	合唱 B	(1)
専攻実技（鍵盤楽器） A	(3)	室内楽	(1)
専攻実技（鍵盤楽器） B	(3)	声楽アンサンブル（スタンダード）	(1)
専攻実技（鍵盤楽器） A	(3)	声楽アンサンブル（アドヴァンスト）	(1)
専攻実技（鍵盤楽器） B	(3)	パロックアンサンブルA	(1)
専攻実技（鍵盤楽器） A	(3)	パロックアンサンブルB	(1)
専攻実技（鍵盤楽器） B	(3)	伴奏実習	(1)
専攻実技（鍵盤楽器） A	(3)	ピアノレパートリーA	(1)
専攻実技（鍵盤楽器） B	(3)	ピアノレパートリーB	(1)
専攻実技（弦楽器） A	(3)	パロック鍵盤音楽レパートリーA	(1)
専攻実技（弦楽器） B	(3)	パロック鍵盤音楽レパートリーB	(1)
専攻実技（弦楽器） A	(3)	声楽レパートリー 1 A	(1)
専攻実技（弦楽器） B	(3)	声楽レパートリー 1 B	(1)
専攻実技（弦楽器） A	(3)	声楽レパートリー 2 A	(1)
専攻実技（弦楽器） B	(3)	声楽レパートリー 2 B	(1)
専攻実技（弦楽器） A	(3)	オペラ	(1)
専攻実技（弦楽器） B	(3)	オラトリオ演習A	(1)
専攻実技（管楽器） A	(3)	オラトリオ演習B	(1)
専攻実技（管楽器） B	(3)	キリスト教音楽	(1)
専攻実技（管楽器） A	(3)	演奏アドヴァンスト A	(2)
専攻実技（管楽器） B	(3)	演奏アドヴァンスト B	(2)
専攻実技（管楽器） A	(3)	演奏アドヴァンスト A	(2)
専攻実技（管楽器） B	(3)	演奏アドヴァンスト B	(2)
専攻実技（管楽器） A	(3)	客員教授特別講義	(2)
専攻実技（管楽器） B	(3)	西洋音楽通史	(4)
導入セミナー	(1)	日本音楽通史	(4)
和声A	(2)	国内音楽研修	(1)
和声B	(2)	海外音楽研修	(2)
合唱 A	(1)	諸民族の音楽	(2)
合唱 B	(1)	キリスト教音楽概論	(2)
合唱 A	(1)	楽曲分析	(2)
合唱 B	(1)	共演芸術 1 A	(2)
ソルフェージュA	(1)	共演芸術 1 B	(2)
ソルフェージュB	(1)	共演芸術 2 A	(2)
演奏のためのからだづくりA	(1)	共演芸術 2 B	(2)
演奏のためのからだづくりB	(1)	キリスト教音楽研究A	(2)
2年次修了公開演奏	(2)	キリスト教音楽研究B	(2)
卒業公開演奏	(4)	現代音楽レパートリー	(2)
室内楽の夕べ	(2)	アーティストのための身体表現A	(2)
オーケストラ協演の夕べ	(3)	アーティストのための身体表現B	(2)
学内公開演奏	(1)	演奏スペシャル講義 1 A	(2)
学外公開演奏	(1)	演奏スペシャル講義 1 B	(2)

第2編 大学（大学学則）

演奏スペシャル講義2 A	(2)	編曲のテクニック	(2)
演奏スペシャル講義2 B	(2)	キーボードハーモニー A	(2)
副科ピアノクラス A	(1)	キーボードハーモニー B	(2)
副科ピアノクラス B	(1)	邦楽 1	(1)
副科声楽クラス A	(1)	邦楽 2	(1)
副科声楽クラス B	(1)	P A 副科個人実技 A	(2)
伴奏法 A	(1)	P A 副科個人実技 B	(2)
伴奏法 B	(1)	P A 教職副科個人実技 A	(1)
ピアノ指導ワークショップ	(2)	P A 教職副科個人実技 B	(1)
幼児リトミック指導ワークショップ A	(2)	P A 第2専攻個人実技 A	(3)
幼児リトミック指導ワークショップ B	(2)	P A 第2専攻個人実技 B	(3)
リトミック指導ワークショップ	(2)	P A アンサンブル弦楽	(1)
コーラスリーダー・ワークショップ	(2)	P A アンサンブル管楽	(1)
指揮法	(2)	P A キーボード・インプロヴィゼーション	(1)
作・編曲法	(2)		

F 国際交流学部国際交流学科

導入演習	(1)	横浜学	(2)
研究入門（国際交流学部での学び）	(2)	ジェンダーと法	(2)
研究入門（時事問題を学ぶ）	(2)	現代社会を理解するためのジェンダー理論	(2)
研究入門（歴史から見る現代世界）	(2)	地球環境	(2)
基礎演習	(1)	環境と開発問題	(2)
国際交流への招待	(2)	世界の人口問題	(2)
国際関係論	(2)	平和思想と運動	(2)
人権保障と法	(2)	国際ビジネス入門	(2)
政治学概論	(2)	プロジェクトで学ぶ現代社会	(2)
SDGs入門	(2)	Current Global Affairs	(2)
国際関係史	(2)	Japan Studies	(2)
文化外交	(2)	英語で学ぶグローバル問題	(2)
時事問題からみる国際関係	(2)	英語で学ぶ国際協力	(2)
グローバル化と労働	(2)	英語で学ぶ社会科学	(2)
グローバル化と生活	(2)	英語で学ぶ人文科学	(2)
社会学概論 A	(2)	ことばとフィールド（ヴェトナム）	(2)
社会学概論 B	(2)	ことばとフィールド（タイ）	(2)
グローバル化する社会	(2)	ことばとフィールド（インドネシア）	(2)
グローバル経済	(2)	ことばとフィールド（フィリピン）	(2)
国際交流の歴史	(2)	システム開発とプログラミング	(2)
世界史概説 A	(2)	統計で学ぶ社会問題（基礎）	(2)
世界史概説 B	(2)	統計で学ぶ社会問題（応用）	(2)
世界の宗教	(2)	ヨーロッパ現地実習	(2)
日本史概説 A	(2)	オーストラリア現地実習	(2)
日本史概説 B	(2)	Spring Abroad	(2)
日本の文化交流	(2)	比較政治制度論	(2)
入門経済学 1	(2)	国際政治	(2)
入門経済学 2	(2)	国際平和論	(2)
日本経済の歴史	(2)	国際機構とグローバル・イシューズ	(2)
現代の日本経済	(2)	国際経済学	(2)
東アジアの近現代史	(2)	途上国と開発経済学	(2)
東アジアの国際関係史	(2)	現代日本の経済問題	(2)
ヨーロッパ史	(2)	グローバル経済史	(2)
ヨーロッパ現代史	(2)	開発援助論	(2)

第2編 大学（大学学則）

国際開発の理論と実践	(2)	ヨーロッパの経済と社会	(2)
国際社会と法	(2)	ヨーロッパの地域開発と観光	(2)
国際経済と法	(2)	フランスの政治	(2)
セクシュアリティと法	(2)	現代中国入門	(2)
法でみる世界 B	(2)	東南アジアの政治	(2)
法学概論	(2)	ロシア研究	(2)
法学研究	(2)	ドイツ史	(2)
環境法	(2)	南アジアの労働	(2)
比較法	(2)	アジア史概説	(2)
法でみる社会 B	(2)	中国現代史	(2)
地域統合	(2)	韓国現代史	(2)
日米関係史	(2)	北朝鮮現代史	(2)
ヨーロッパ政治思想史	(2)	アジアの国際関係	(2)
外交政策論	(2)	アジアの環境問題 1	(2)
経営史	(2)	アジアの環境問題 2	(2)
イノベーションと社会	(2)	アジア現地実習	(2)
世界の格差と国際協力	(2)	ユーラシアの国際関係	(2)
観光社会学	(2)	北ヨーロッパの歴史	(2)
観光ビジネス論	(2)	イギリスの政治と社会 1	(2)
市民社会の国際協力	(2)	イギリスの政治と社会 2	(2)
日本外交史	(2)	アメリカの政治	(2)
現代日本と国際関係	(2)	アメリカの外交	(2)
南アジアの経済	(2)	アメリカと国際経済	(2)
現代アメリカ論 1	(2)	中国の文化と芸術	(2)
現代アメリカ論 2	(2)	韓国の文化と社会	(2)
カナダの社会	(2)	コリアン・スタディーズ	(2)
アフリカを学ぶ	(2)	南アジアの文化と社会	(2)
中東を学ぶ	(2)	中東の文化と社会	(2)
平和構築	(2)	アフリカの文化と社会	(2)
人権と世界政治	(2)	フランスの文化と社会	(2)
安全保障	(2)	フランス文化論	(2)
東アジアの安全保障	(2)	ファッションとアート	(2)
国際協力特殊講義	(2)	ブランド文化論	(2)
日本政治思想史	(2)	ヨーロッパの文化とジェンダー	(2)
日本社会史	(2)	ヨーロッパ地域論	(2)
現代社会に見る日本文化	(2)	キリスト教と文化	(2)
フランス史	(2)	アジアの宗教と思想	(2)
スペイン史	(2)	政治思想論	(2)
スペインの文化と社会	(2)	思想文化論	(2)
ラテンアメリカの歴史と文化	(2)	ヨーロッパ世界の芸術	(2)
スペイン語圏の文化と社会	(2)	スペイン語圏の文学	(2)
ラテンアメリカ文化論	(2)	イギリス史 1	(2)
文化交流論	(2)	イギリス史 2	(2)
比較文化論から見た芸能	(2)	イギリス史	(2)
翻訳と文化	(2)	現代イギリス論	(2)
アジア共同体研究	(2)	イギリスの思想と宗教	(2)
メディア文化と社会	(2)	イギリスの文化	(2)
若者の文化と社会	(2)	アメリカの文化 1	(2)
イスラームと世界	(2)	アメリカの文化 2	(2)
中国の文化と社会	(2)	アメリカの文化 3	(2)
中国の近現代文学	(2)	アメリカ史	(2)

第2編 大学（大学学則）

アメリカ社会史	(2)	社会政策論	(2)
アメリカの思想と宗教	(2)	身体と生命の社会学	(2)
オーストラリアの社会と文化 1	(2)	家族の比較文化論	(2)
オーストラリアの社会と文化 2	(2)	ヨーロッパ社会史	(2)
環境教育の理念と実践	(2)	北ヨーロッパの福祉社会	(2)
スポーツと国際社会	(2)	格差社会とアイデンティティ	(2)
比較スポーツ論	(2)	若者の労働環境	(2)
文化交流特殊講義	(2)	若者の社会参加とSDGs	(2)
市民参加の社会形成	(2)	英語で学ぶグリーン経済と農業	(2)
Globalization Studies	(2)	英語で学ぶグリーン経済とエネルギー	(2)
コーポレート・ガバナンスと日本企業	(2)	地域ブランドの育て方	(2)
アジア経済論	(2)	地域と食文化	(2)
国際ビジネス論	(2)	中国の環境と開発	(2)
金融入門	(2)	環境学（1）	(2)
金融論	(2)	環境学（2）	(2)
マーケティング論	(2)	地球環境入門	(2)
国際交通論	(2)	農環境体験実習	(2)
国際経営戦略論	(2)	海外環境フィールド実習	(2)
情報が世界を変える	(2)	海外エコツーリズム実習	(2)
社会を読み解くデータサイエンス基礎	(2)	海外現地実習	(2)
社会を読み解くデータサイエンス応用	(2)	グローバル化する仕事と家族	(2)
データ分析設計	(2)	在日外国人	(2)
プログラミングとデータの可視化	(2)	余暇と旅行	(2)
横浜学実習	(2)	観光文化論	(2)
地方分権と市民社会	(2)	民族問題から見た世界情勢	(2)
人文地理学	(2)	移住と文化の理論	(2)
自然地理学	(2)	国際ブランド・ビジネス	(2)
地誌	(2)	ボランティア論	(2)
都市生活の空間デザイン	(2)	環境と社会	(2)
住空間デザイン	(2)	日本の経済と経営	(2)
環境共生型ライフスタイル	(2)	人間環境特殊講義	(2)
ジェンダーと持続可能な開発	(2)	専門演習	(1)
環境と持続可能性のまちづくり	(2)	卒業論文	(6)
持続可能な資源利用	(2)		

第2編 大学（大学学則）

別表第2 - 2（第3条関係）

専門科目

（ ）内は単位数

A グローバル教養学部国際社会学科

学科の学び	(2)	国際経営戦略論	(2)
国際学への招待	(2)	マーケティング論	(2)
導入ゼミ	(1)	観光ビジネス論	(2)
基礎ゼミ	(1)	社会データ分析	(2)
国際協力入門	(2)	プログラミングとデータの可視化	(2)
国際政治入門	(2)	データ分析設計	(2)
国際政治経済入門	(2)	日本の経済と経営	(2)
政治思想入門	(2)	英語で学ぶ観光学	(2)
政治学概論	(2)	観光史	(2)
経済学入門（マクロ）	(2)	観光学	(2)
経済学入門（ミクロ）	(2)	観光・地域創生実習	(2)
日本経済入門	(2)	観光文化論	(2)
国際ビジネス入門	(2)	横浜学	(2)
グローバル経済史入門	(2)	環境学	(2)
社会データ分析入門	(2)	資源利用論	(2)
観光学入門	(2)	環境学実習	(2)
社会学概論A	(2)	環境経済学	(2)
社会学概論B	(2)	環境政策論	(2)
環境学入門	(2)	ボランティア論	(2)
環境経済学入門	(2)	地域環境学	(2)
地域環境入門	(2)	地域環境研究	(2)
法学概論	(2)	法学研究	(2)
アメリカ史入門	(2)	比較法	(2)
ヨーロッパ史入門	(2)	環境法	(2)
アジア史入門	(2)	ジェンダーと法	(2)
東アジア史入門	(2)	世界の環境問題	(2)
国際協力論	(2)	人文地理学	(2)
国際開発論	(2)	自然地理学	(2)
開発援助論	(2)	地誌	(2)
国際政治学	(2)	グローバル・ヒストリー	(2)
平和構築	(2)	グローバル・ヒストリー研究	(2)
外交政策論	(2)	アメリカ史研究	(2)
国際政治経済学	(2)	ヨーロッパ史研究	(2)
比較政治学	(2)	ヨーロッパ地域研究	(2)
アメリカ政治経済論	(2)	現代中国論	(2)
英語で学ぶ国際関係	(2)	東アジア国際関係史	(2)
文化の政治学	(2)	東アジア研究（韓国）	(2)
現代アメリカ政治思想	(2)	東アジア研究（北朝鮮）	(2)
国際社会と地域	(2)	現代宗教論	(2)
開発経済学	(2)	世界史概説A	(2)
国際経済学	(2)	世界史概説B	(2)
金融論	(2)	日本史概説A	(2)
日本経済論	(2)	日本史概説B	(2)
日本経済史	(2)	専門ゼミ A	(1)
日本経営史	(2)	専門ゼミ B	(1)
日本企業論	(2)	専門ゼミ A	(1)
国際ビジネス論	(2)	専門ゼミ B	(1)

第2編 大学（大学学則）

卒業論文	(6)	海外現地実習	(2)
B グローバル教養学部心理コミュニケーション学科			
学科の学び	(2)	関係行政論	(2)
導入ゼミ	(1)	感情・人格心理学	(2)
心理コミュニケーションの基礎	(2)	神経・生理心理学	(2)
基礎ゼミ	(1)	教育・学校心理学	(2)
コミュニケーション概論	(2)	産業・組織心理学	(2)
身体としぐさの心理学	(2)	司法・犯罪心理学	(2)
談話分析	(2)	障害者（児）心理学	(2)
コミュニケーションと社会・文化・共生	(2)	福祉心理学	(2)
ことばと心理・個人・社会・地理の因果関係	(2)	マルチメディア制作（CG・DTP編集）	(2)
マスコミュニケーションと情報社会	(2)	マルチメディア制作（音楽制作）	(2)
メディアリテラシー論	(2)	フィルム・スタディーズ入門	(2)
多文化共生論入門	(2)	メディア分析	(2)
日本語教育学概論	(2)	メディア制作	(2)
比較共生社会論	(2)	音楽社会学	(2)
文献・情報の集め方	(2)	キリスト教音楽概論	(2)
社会・心理調査の方法	(2)	映画舞台音楽論	(2)
プレゼンテーションの方法	(2)	諸民族の音楽	(2)
インタビュー・面接のスキル	(2)	コンピュータ音楽制作	(2)
ディベートと自己主張	(2)	調査と取材の技法	(2)
ビジネス・コミュニケーションスキル	(2)	新聞・出版ワークショップ	(2)
フィールドワークとライフストーリー研究	(2)	編集的思考入門	(2)
コンピュータによる調査データの解析	(2)	映画研究	(2)
対話研究	(2)	出版編集制作	(2)
社会言語学	(2)	編集デザインスキル	(2)
原因と結果のデータ分析	(2)	インターネットメディア論	(2)
データに基づく予測	(2)	インターネットセキュリティ	(2)
ファッション文化	(2)	テキストマイニング	(2)
心理データ分析	(2)	ゲーム分析	(2)
心理学の応用	(2)	Internet of Things	(2)
ことばと心理	(2)	プログラミング演習	(2)
心理的アセスメント	(2)	ネットアプリ制作演習	(2)
心理学実験	(4)	メディア論	(2)
心理学統計法	(2)	広告とマーケティング	(2)
心理学研究法	(2)	音楽ジャーナリズム	(2)
臨床心理学概論	(2)	アニメ・ゲーム音楽の製作技法	(2)
公認心理師の職責	(2)	アート・マネージメント	(2)
心理学概論	(2)	Digital Fabrication Lab.	(2)
知覚・認知心理学	(2)	コミックと小説の訴求構造分析	(2)
学習・言語心理学	(2)	英語で学ぶ映画	(2)
社会・集団・家族心理学	(2)	ジェンダーと多文化共生社会	(2)
発達心理学	(2)	セクシュアリティと社会	(2)
健康・医療心理学	(2)	比較支援論	(2)
人体の構造と機能及び疾病	(2)	多文化社会における社会福祉	(2)
心理学的支援法	(2)	異文化コミュニケーションの理論と実践	(2)
心理演習	(2)	エスニックマイノリティと共生社会	(2)
心理実習	(2)	共生社会と宗教	(2)
精神疾患とその治療	(2)	英語で読む世界の「移民問題」	(2)

第2編 大学（大学学則）

ことばとフィールド	(2)	日本語学習のコースデザイン	(2)
共生のフィールドワーク	(4)	日本語教育の教材分析	(2)
生活支援論	(2)	日本語教育文法	(2)
ケースワーク基礎論	(2)	日本語教授法	(2)
共生コミュニケーション実践論	(2)	第二言語習得論（日本語）	(2)
多文化教育方法論	(2)	音声教育法	(2)
紛争解決コミュニケーション	(2)	日本語教育実習 1	(2)
聴覚障害の理解と手話の技法	(2)	日本語教育実習 2	(2)
コミュニティ通訳論（基礎）	(2)	専門ゼミ A	(1)
コミュニティ通訳論（実践）	(2)	専門ゼミ B	(1)
コミュニティ通訳論（特論）	(2)	専門ゼミ A	(1)
地域日本語教育実習	(2)	専門ゼミ B	(1)
日本語教育研究の方法	(2)	卒業論文・卒業制作	(6)

C グローバル教養学部文化表現学科

学科の学び	(2)	アジアの身体表現	(2)
導入ゼミ	(1)	欧米芸術と文学	(2)
欧米文化表現入門	(2)	イギリス文学	(2)
日本・アジア文化表現入門	(2)	アメリカ文学	(2)
音楽・身体表現入門	(2)	フランス文化論	(2)
基礎ゼミ	(1)	ラテンアメリカ文化論	(2)
イギリス研究入門	(2)	性愛文化論	(2)
アメリカ研究入門	(2)	テキスト文化論	(2)
フランス研究入門	(2)	英語テキスト分析	(2)
ドイツ研究入門	(2)	英語学	(2)
スペイン語圏研究入門	(2)	英語の歴史	(2)
中国研究入門	(2)	第二言語習得論（英語）	(2)
韓国研究入門	(2)	Thought and Expression in English	(2)
東アジアの文字と文化	(2)	Advanced English Skills	(2)
コミュニケーション文化論	(2)	翻訳（英文和訳作成）	(2)
英語学研究入門	(2)	通訳（英語・日本語）	(2)
Pronunciation Clinic	(2)	書道	(1)
Academic Skills	(2)	日本語の歴史	(2)
日本語学概論	(2)	日本語学演習	(2)
文章表現法	(1)	日本古典文学演習	(2)
イギリス文学史	(2)	日本近現代文学演習	(2)
アメリカ文学史	(2)	日本語学特講	(2)
日本古典文学概論	(2)	日本古典文学特講	(2)
日本近現代文学概論	(2)	日本近現代文学特講	(2)
古典読解の基礎	(2)	日本伝統文化論	(2)
文学理論の基礎	(2)	日本表象文化論	(2)
演劇論の基礎	(2)	日本言語表現論	(2)
欧米芸術入門	(2)	東アジア文学論	(2)
欧米芸術音楽	(2)	漢文学概論	(2)
日本の音楽	(2)	漢文学演習	(2)
欧米音楽入門 1（理論）	(2)	中国文化論	(2)
欧米音楽入門 2（ソルフェージュ）	(1)	韓国文化論	(2)
欧米音楽入門 3（実践）	(1)	欧米音楽 1（理論）	(2)
音楽とクリエーション入門	(2)	欧米音楽 2（実践）	(1)
音楽とビジネス入門	(2)	欧米音楽 3（実践上級）	(2)

第2編 大学（大学学則）

ソングライティングとアレンジメント	(2)	音楽と身体2（実践）	(2)
コンサート	(1)	舞踊の文化人類学	(2)
アンサンブル	(2)	バレエの歴史	(2)
キリスト教音楽	(2)	スポーツ文化	(2)
物語と音楽	(2)	声の表現1（演技）	(2)
ドイツ文学と音楽	(2)	声の表現2（アナウンス）	(2)
音楽とクリエーション応用1（コンテンツ）	(2)	専門ゼミ A	(1)
音楽とクリエーション応用2（プロダクト）	(2)	専門ゼミ B	(1)
映像音楽・音響制作	(2)	専門ゼミ A	(1)
音楽とビジネス応用	(2)	専門ゼミ B	(1)
音楽と身体1（理論）	(2)	卒業研究	(6)

第2編 大学（大学学則）

別表第3（第3条関係）

教職に関する科目

（ ）内は単位数

2018年度以前入学者

教職入門	(2)	社会・地理歴史科教育法	(2)
教育原理	(2)	社会・公民科教育法	(2)
教育思想	(2)	社会・公民科教育法	(2)
教育心理学	(2)	道德教育の理論と実践	(2)
教育社会学	(2)	特別活動	(2)
教育課程論	(2)	教育方法・技術	(2)
英語科教育法	(4)	生徒・進路指導の理論と方法	(2)
英語科教育法	(4)	教育相談	(2)
国語科教育法	(4)	教育実習 1	(1)
国語科教育法	(4)	教育実習 2	(2)
音楽科教育法	(4)	教育実習 3	(2)
音楽科教育法	(4)	教職実践演習（中・高）	(2)
社会・地理歴史科教育法	(2)		

2019～2021年度入学者

英語科教育法	(4)	教育心理学	(2)
英語科教育法	(4)	特別支援教育の基礎と方法	(1)
国語科教育法	(4)	教育課程論	(2)
国語科教育法	(4)	道德教育の理論と実践	(2)
音楽科教育法	(4)	総合的な学習の時間の指導法	(1)
音楽科教育法	(4)	特別活動	(2)
社会・地理歴史科教育法	(2)	教育方法・技術	(2)
社会・地理歴史科教育法	(2)	生徒・進路指導の理論と方法	(2)
社会・公民科教育法	(2)	教育相談	(2)
社会・公民科教育法	(2)	教育実習 1	(1)
教育原理	(2)	教育実習 2	(2)
教育思想	(2)	教育実習 3	(2)
教職入門	(2)	教職実践演習（中・高）	(2)
教育社会学	(2)		

2022年度以降入学者

英語科教育法	(4)	教育心理学	(2)
英語科教育法	(4)	特別支援教育の基礎と方法	(1)
国語科教育法	(4)	教育課程論	(2)
国語科教育法	(4)	道德教育の理論と実践	(2)
音楽科教育法	(4)	総合的な学習の時間の指導法	(1)
音楽科教育法	(4)	特別活動	(2)
社会・地理歴史科教育法	(2)	教育の方法・技術（情報通信技術の活用含む）	(2)
社会・地理歴史科教育法	(2)	生徒・進路指導の理論と方法	(2)
社会・公民科教育法	(2)	教育相談	(2)
社会・公民科教育法	(2)	教育実習 1	(1)
教育原理	(2)	教育実習 2	(2)
教育思想	(2)	教育実習 3	(2)
教職入門	(2)	教職実践演習（中・高）	(2)
教育社会学	(2)		

第2編 大学（大学学則）

2025年度以降入学者

英語科教育法	(4)	特別支援教育の基礎と方法	(1)
英語科教育法	(4)	教育課程論	(2)
国語科教育法	(4)	道德教育の理論と実践	(2)
国語科教育法	(4)	総合的な学習の時間の指導法	(1)
社会・地理歴史科教育法	(2)	特別活動	(2)
社会・地理歴史科教育法	(2)	教育の方法・技術（情報通信技術の活用含む）	(2)
社会・公民科教育法	(2)	生徒・進路指導の理論と方法	(2)
社会・公民科教育法	(2)	教育相談	(2)
教育原理	(2)	教育実習 1	(1)
教育思想	(2)	教育実習 2	(2)
教職入門	(2)	教育実習 3	(2)
教育社会学	(2)	教職実践演習（中・高）	(2)
教育心理学	(2)		

別表第 4（第 3 条の 2 関係）

日本語科目及び日本事情に関する科目 ()内は単位数

（外国人留学生対象）

大学で学ぶ日本語	(1)	日本事情 A	(2)
大学で学ぶ日本語	(1)	日本事情 B	(2)

第2編 大学（大学学則）

別表第5 - 1（第18条関係）

卒業に必要な単位

A 文学部

2015年度入学者

区 分		卒業に必要な単位数			備 考
		英語 英米文学科	日本語 日本文学科	コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 学 科	
共通 科目	基礎教養科目	2	2	2	キリスト教科目については、 「キリスト教概論」2単位及び 「キリスト教概論」以外のキリ スト教科目から2単位を必修 とする。 語学科目の修得単位は、卒業要 件として32単位まで認める。
	総合課題科目	2	2	2	
	語 学 科 目	20又は22	10又は22	10又は22	
専門 科目	卒業論文又は 卒業論文・卒 業制作	6	6	6	
	選択必修科目	44	36	36	
合計	区分の規定に従 って取得した単 位数と共通科 目、専門科目及 び教職に関する 科目を通じて自 由に選択して取 得した単位数の 合計	124	124	124	自由に選択して修得する授業科 目のうち、専門科目は、所属学部 及び他学部の専門科目とする。

備考

- 1 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数の上限については、別に定める。
- 2 2015年度入学者に適用する共通科目は、「キリスト教」は「キリスト教概論」、「キリスト教」、「」は「キリスト教学」又は「一神教概論」、「キリスト教」は「フェリス女学院とキリスト教」と読み替える。

第2編 大学（大学学則）

2016年度入学者

区 分		卒業に必要な単位数			備 考
		英語 英米文学科	日本語 日本文学科	コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 学 科	
共通 科目	基礎教養科目	2	2	2	キリスト教科目については、 「キリスト教概論」2単位及び 「キリスト教概論」以外のキリ スト教科目から2単位を必修 とする。
	総合課題科目	2	2	2	
	語 学 科 目	20又は22	10又は22	10又は22	語学科目の修得単位は、卒業要件として32単位まで認める。
専門 科目	卒業論文又は 卒業論文・卒業制作	6	6	6	
	選択必修科目	44	37	36	
合計	区分の規定に従って取得した単位数と共通科目、専門科目及び教職に関する科目を通じて自由に選択して取得した単位数の合計	124	124	124	自由に選択して修得する授業科目のうち、専門科目は、所属学部及び他学部の専門科目とする。

備考

- 1 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数の上限については、別に定める。
- 2 2016年度入学者に適用する共通科目は、「キリスト教」は「キリスト教概論」、「キリスト教」、「」は「キリスト教学」又は「一神教概論」、「キリスト教」は「フェリス女学院とキリスト教」と読み替える。

第2編 大学（大学学則）

2017年度入学者

区 分		卒業に必要な単位数			備 考
		英語 英米文学科	日本語 日本文学科	コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 学 科	
共通 科目	CLAコア科目	8	8	8	「キリスト教概論」2単位及び 「キリスト教学」2単位を必修 とする。 語学科目の修得単位は、卒業要 件として32単位まで認める。
	語 学 科 目	20又は22	10又は22	10又は22	
専門 科目	卒業論文又は 卒業論文・卒 業制作	6	6	6	
	選択必修科目	44	37	36	
合計	区分の規定に 従って取得し た単位数と共 通科目、専門 科目及び教職 に関する科目 を通じて自由 に選択して取 得した単位数 の合計	124	124	124	自由に選択して修得する授業 科目のうち、専門科目は、所属 学部及び他学部の専門科目と する。

備考

- 1 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数の上限については、別に定める。
- 2 2017年度入学者に適用するCLAコア科目は、「キリスト教」は「キリスト教概論」、「キリスト教」、「」は「キリスト教学」又は「一神教概論」、「キリスト教」は「フェリス女学院とキリスト教」と読み替える。

第2編 大学（大学学則）

2018年度以降入学者

区 分		卒業に必要な単位数			備 考
		英語 英米文学科	日本語 日本文学科	コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 学 科	
共通 科目	CLAコア科目	8	8	8	「キリスト教概論」2単位及び 「キリスト教学」2単位を必修 とする。
	語 学 科 目	20又は22	10、16 又は22	10、16 又は22	語学科目の修得単位は、卒業要 件として32単位まで認める。
専門 科目	卒業論文又は 卒業論文・卒 業制作	6	6	6	
	選択必修科目	44	37	36	
合計	区分の規定に 従って取得し た単位数と共 通科目、専門 科目及び教職 に関する科目 を通じて自由 に選択して取 得した単位数 の合計	124	124	124	自由に選択して修得する授業 科目のうち、専門科目は、所属 学部及び他学部の専門科目と する。

備考

- 1 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数の上限については、別に定める。
- 2 2018～2023年度入学者に適用するCLAコア科目は、「キリスト教」は「キリスト教概論」、「キリスト教」、「」は「キリスト教学」又は「一神教概論」、「キリスト教」は「フェリス女学院とキリスト教」と読み替える。

第2編 大学（大学学則）

B 音楽学部

2014～2016年度入学者

区 分		卒業に必要な単位数		備 考
		音楽芸術学科	演奏学科	
共通 科目	基礎教養科目	2	2	キリスト教科目については、「キリスト教概論」2単位及び「キリスト教概論」以外のキリスト教科目から2単位を必修とする。 語学科目の修得単位は、卒業要件として32単位まで認める。
	総合課題科目	2	2	
	語 学 科 目	8	8	
専門 科目	卒業プロジェクト又は卒業公開演奏	6	4	
	2年次修了公開演奏		2	
	選択必修科目	34	40	
合計	区分の規定に従って取得した単位数と共通科目、専門科目及び教職に関する科目を通じて自由に選択して取得した単位数の合計	124	124	自由に選択して修得する授業科目のうち、専門科目は、所属学部及び他学部の専門科目とする。

備考

- 1 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数の上限については、別に定める。
- 2 2014～2016年度入学者に適用する共通科目は、「キリスト教」は「キリスト教概論」、「キリスト教」、「」は「キリスト教学」又は「一神教概論」、「キリスト教」は「フェリス女学院とキリスト教」と読み替える。

第2編 大学（大学学則）

2017～2018年度入学者

区 分		卒業に必要な単位数		備 考
		音楽芸術学科	演奏学科	
共通 科目	CLAコア科目	8	8	「キリスト教概論」2単位及び「キリスト教学」2単位を必修とする。
	語 学 科 目	8	8	語学科目の修得単位は、卒業要件として32単位まで認める。
専門 科目	卒業プロジェクト又は卒業公開演奏	6	4	
	2年次修了公開演奏		2	
	選択必修科目	34	40	
合計	区分の規定に従って取得した単位数と共通科目、専門科目及び教職に関する科目を通じて自由に選択して取得した単位数の合計	124	124	自由に選択して修得する授業科目のうち、専門科目は、所属学部及び他学部の専門科目とする。

備考

- 1 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数の上限については、別に定める。
- 2 2017～2018年度入学者に適用するCLAコア科目は、「キリスト教」は「キリスト教概論」、「キリスト教」、「」は「キリスト教学」又は「一神教概論」、「キリスト教」は「フェリス女学院とキリスト教」と読み替える。

第2編 大学（大学学則）

2019年度以降入学者

区分		卒業に必要な単位数	備考
		音楽芸術学科	
共通科目	CLAコア科目	8	「キリスト教概論」2単位及び「キリスト教学」2単位を必修とする。
	語学科目	10又は22	語学科目の修得単位は、卒業要件として32単位まで認める。
専門科目	卒業プロジェクト	6	
	選択必修科目	38	
合計	区分の規定に従って取得した単位数と共通科目、専門科目及び教職に関する科目を通じて自由に選択して取得した単位数の合計	124	自由に選択して修得する授業科目のうち、専門科目は、所属学部及び他学部の専門科目とする。

備考

- 1 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数の上限については、別に定める。
- 2 2019～2023年度入学者に適用するCLAコア科目は、「キリスト教」は「キリスト教概論」、「キリスト教」、「」は「キリスト教学」又は「一神教概論」、「キリスト教」は「フェリス女学院とキリスト教」と読み替える。

第2編 大学（大学学則）

C 国際交流学部

2009～2016年度入学者

区 分		卒業に必要な単位数	備 考
		国際交流学科	
共通科目	基礎教養科目	2	キリスト教科目については、「キリスト教概論」2単位及び「キリスト教概論」以外のキリスト教科目から2単位を必修とする。
	総合課題科目	2	
	語 学 科 目	10又は22	語学科目の修得単位は、卒業要件として32単位まで認める。
専門科目	卒 業 論 文	6	卒業論文（6単位）に代えて、指導教員の指定する専門科目（6単位）を修得することができる。
	必 修 科 目	8	
	選択必修科目	32	
合計	区分の規定に従って取得した単位数と共通科目、専門科目及び教職に関する科目を通じて自由に選択して取得した単位数の合計	124	自由に選択して修得する授業科目のうち、専門科目は、所属学部及び他学部の専門科目とする。

備考

- 1 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数の上限については、別に定める。
- 2 2009～2016年度入学者に適用する共通科目は、「キリスト教」は「キリスト教概論」、「キリスト教」、「」は「キリスト教学」又は「一神教概論」、「キリスト教」は「フェリス女学院とキリスト教」と読み替える。

第2編 大学（大学学則）

2017年度入学者

区 分		卒業に必要な単位数	備 考
		国際交流学科	
共通 科目	CLAコア科目	8	「キリスト教概論」2単位及び「キリスト教学」2単位を必修とする。
	語 学 科 目	10又は22	
専門 科目	卒 業 論 文	6	卒業論文（6単位）に代えて、指導教員の指定する専門科目（6単位）を修得することができる。
	必 修 科 目	8	
	選択必修科目	32	
合計	区分の規定に従って取得した単位数と共通科目、専門科目及び教職に関する科目を通じて自由に選択して取得した単位数の合計	124	自由に選択して修得する授業科目のうち、専門科目は、所属学部及び他学部の専門科目とする。

備考

- 1 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数の上限については、別に定める。
- 2 2017年度入学者に適用するCLAコア科目は、「キリスト教」は「キリスト教概論」、「キリスト教」は「キリスト教学」又は「一神教概論」、「キリスト教」は「フェリス女学院とキリスト教」と読み替える。

第2編 大学（大学学則）

2018年度以降入学者

区 分		卒業に必要な単位数	備 考
		国際交流学科	
共通 科目	CLAコア科目	8	「キリスト教概論」2単位及び「キリスト教学」2単位を必修とする。
	語 学 科 目	10、16又は22	
専門 科目	卒 業 論 文	6	卒業論文（6単位）に代えて、指導教員の指定する専門科目（6単位）を修得することができる。
	必 修 科 目	8	
	選択必修科目	32	
合計	区分の規定に従って取得した単位数と共通科目、専門科目及び教職に関する科目を通じて自由に選択して取得した単位数の合計	124	自由に選択して修得する授業科目のうち、専門科目は、所属学部及び他学部の専門科目とする。

備考

- 1 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数の上限については、別に定める。
- 2 2018～2023年度入学者に適用するCLAコア科目は、「キリスト教」は「キリスト教概論」、「キリスト教」、「」は「キリスト教学」又は「一神教概論」、「キリスト教」は「フェリス女学院とキリスト教」と読み替える。

第2編 大学（大学学則）

別表第5 - 2（第18条関係）

卒業に必要な単位

A グローバル教養学部国際社会学科

科目区分		科目群	単位数	備 考
共通 科目	CLAコア科目	キリスト教科目	4	「キリスト教概論」2単位及び「キリスト教学」2単位を必修とする。
		上記以外	12	
	語学科目		10、16又は22	語学科目の修得単位は、卒業要件として32単位まで認める。
	P A 科目		-	
専門 科目	卒業論文		6	
	必 修		6	
	選択必修		35	
合計	区分の規定に従って取得した単位数と共通科目、専門科目及び教職に関する科目を通じて自由に選択して取得した単位数の合計		124	自由に選択して修得する授業科目のうち、専門科目は、所属学科及び他学科の専門科目とする。

備考 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数上限については、別に定める。

B グローバル教養学部心理コミュニケーション学科

科目区分		科目群	単位数	備 考
共通 科目	CLAコア科目	キリスト教科目	4	「キリスト教概論」2単位及び「キリスト教学」2単位を必修とする。
		上記以外	12	
	語学科目		10、16又は22	語学科目の修得単位は、卒業要件として32単位まで認める。

第2編 大学（大学学則）

	P A 科目	-	
専門 科目	卒業論文・卒業制作	6	
	必修	6	
	選択必修	35	
合計	区分の規定に従って取得した単位数と 共通科目、専門科目及び教職に関する 科目を通じて自由に選択して取得した 単位数の合計	124	自由に選択して修得する授 業科目のうち、専門科目は、 所属学科及び他学科の専門 科目とする。

備考 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数上限については、別に定める。

C グローバル教養学部文化表現学科

科目区分		科目群	単位数	備 考
共通 科目	CLAコア科目	キリスト教科目	4	「キリスト教概論」2単位及び「キリスト教学」2単位を必修とする。
		上記以外	12	
	語学科目		10、16又は22	語学科目の修得単位は、卒業要件として32単位まで認める。
	P A 科目		-	
専門 科目	卒業研究		6	
	必修		6	
	選択必修		39	
合計	区分の規定に従って取得した単位数と 共通科目、専門科目及び教職に関する 科目を通じて自由に選択して取得した 単位数の合計		124	自由に選択して修得する授 業科目のうち、専門科目は、 所属学科及び他学科の専門 科目とする。

備考 上記に定める以外の卒業要件として認められる科目区分ごとの単位数上限については、別に定める。

に定める。

別表第 6（第35条関係）

入学検定料	35,000円
大学入学共通テスト 利用入学試験	15,000円

第2編 大学（大学学則）

別表第7 - 1（第36条の4関係）

学生納付金（2016年度以前入学者）

A 文学部、国際交流学部

〔入学金、学納金〕

		前期	後期	備考
入学金		300,000円	———	入学時の手続きのみ
学納金	授業料（基本額）	355,000円	355,000円	在学中
	実習費	7,500円	7,500円	在学中
	施設設備費	142,500円	142,500円	
納付総額	入学初年度	1,310,000円（うち入学時の手続き 805,000円）		
	入学翌年度以降	1,010,000円		

備考

音楽学部開講の実技科目（P A科目）を履修する者の当該学期の納入すべき授業料は、上記授業料（基本額）にP A科目実技料を加えた額とする。なおP A科目実技料は、音楽学部学納金に定める。

〔在籍料〕

休学者の在籍料は、次のとおりとする。

前期	後期
181,250円	181,250円

第2編 大学（大学学則）

B 音楽学部

〔入学金、学納金〕

1 音楽芸術学科

		前期	後期	備考
入学金		300,000円	———	入学時時のみ
学納金	授業料（基本額）	355,000円	355,000円	在学中
	実習費	27,500円	27,500円	在学中
	施設設備費	220,800円	220,700円	
納付総額	入学初年度	1,506,500円（うち入学時時 903,300円）		
	入学翌年度以降	1,206,500円		

2 演奏学科

		前期	後期	備考
入学金		300,000円	———	入学時時のみ
学納金	授業料（基本額）	590,000円	590,000円	在学中
	実習費	55,000円	55,000円	在学中
	施設設備費	220,800円	220,700円	
納付総額	入学初年度	2,031,500円（うち入学時時 1,165,800円）		
	入学翌年度以降	1,731,500円		

備考

- 1 納入すべき授業料は、実技科目の履修に応じ、上記授業料（基本額）に次のPA科目実技料を加えた額とする。

個人実技〔1楽器等あたり〕	50,000円（1単位につき）
グループ実技	30,000円（1単位につき）

- 2 演奏学科授業科目「専攻実技 A・B～ A・B」を再履修する場合、再履修料として1科目につき100,000円を納入しなければならない。ただし、修業年限を超えて在学する者については、別に定める。

〔在籍料〕

休学者の在籍料は、次のとおりとする。

	前期	後期
音楽芸術学科	191,250 円	191,250 円
演奏学科	322,500 円	322,500 円

第2編 大学（大学学則）

別表第7 - 2（第36条の4関係）

学生納付金（2017年度以降入学者）

A 文学部、国際交流学部

〔入学金、学納金〕

		前期	後期	備考
入学金		200,000円	—	入学時のみ
学納金	授業料（基本額）	412,500円	412,500円	在学中
	施設設備費	142,500円	142,500円	
納付総額	入学初年度	1,310,000円（うち入学時 755,000円）		
	入学翌年度以降	1,110,000円		

備考

音楽学部開講の実技科目（P A科目）を履修する者の当該学期の納入すべき授業料は、上記授業料（基本額）にP A科目実技料を加えた額とする。なおP A科目実技料は、音楽学部学納金に定める。

〔在籍料〕

休学者の在籍料は、次のとおりとする。

前期	後期
206,250円	206,250円

第2編 大学（大学学則）

B 音楽学部

〔入学金、学納金〕

1 音楽芸術学科

		前期	後期	備考
入学金		200,000円	———	入学時時のみ
学納金	授業料（基本額）	432,500円	432,500円	在学中
	施設設備費	220,800円	220,700円	
納付総額	入学初年度	1,506,500円（うち入学時時 853,300円）		
	入学翌年度以降	1,306,500円		

2 演奏学科

		前期	後期	備考
入学金		200,000円	———	入学時時のみ
学納金	授業料（基本額）	695,000円	695,000円	在学中
	施設設備費	220,800円	220,700円	
納付総額	入学初年度	2,031,500円（うち入学時時 1,115,800円）		
	入学翌年度以降	1,831,500円		

備考

- 1 納入すべき授業料は、実技科目の履修に応じ、上記授業料（基本額）に次のPA科目実技料を加えた額とする。

個人実技〔1楽器等あたり〕	50,000円（1単位につき）
グループ実技	30,000円（1単位につき）

- 2 演奏学科授業科目「専攻実技 A・B～ A・B」を再履修する場合、再履修料として1科目につき100,000円を納入しなければならない。ただし、修業年限を超えて在学する者については、別に定める。

〔在籍料〕

休学者の在籍料は、次のとおりとする。

	前期	後期
音楽芸術学科	216,250円	216,250円
演奏学科	347,500円	347,500円

第2編 大学（大学学則）

別表第7 - 3（第36条の4関係）

学生納付金（2025年度以降入学者）

グローバル教養学部

〔入学金、学納金〕

		前期	後期	備考
入学金		200,000円	———	入学時
学納金	授業料（基本額）	444,500円	444,500円	在学中
	施設設備費	153,500円	153,500円	
納付総額	入学初年度	1,396,000円（うち入学時 798,000円）		
	入学翌年度以降	1,196,000円		

備考

共通科目のPA科目を履修する者の当該学期の納入すべき授業料は、上記授業料（基本額）に、次の実技料を加えた額とする。

個人実技〔1楽器等あたり〕	50,000円（1単位につき）
グループ実技	30,000円（1単位につき）

〔在籍料〕

休学者の在籍料は、次のとおりとする。

前期	後期
222,250円	222,250円

第2編 大学（大学学則）

別表第8（第43条関係）

科目等履修生受講料等

選考料 （ただし、本学卒業者及び国費留学生 は無料とする。）	5,000円
登録料・施設設備利用料	5,000円
受講料（1単位につき） 講義科目 実習又は演習科目 P A 科目	5,000円 10,000円 30,000円
単位認定料（1単位につき） 講義科目 実習又は演習科目 P A 科目	7,500円 15,000円 20,000円

○フェリス女学院大学学位規則

1991年4月1日制定	
1991年9月6日改正	1994年10月24日改正
1995年5月25日改正	1997年5月20日改正
2001年2月19日改正	2001年10月25日改正
2003年9月25日改正	2007年2月22日改正
2008年2月28日改正	2013年10月24日改正
2015年2月26日改正	2016年3月24日改正
2017年5月25日改正	2019年2月28日改正
2019年10月24日改正	2022年2月24日改正
2024年2月29日改正	

第1章 総則

（目的）

第1条 この規則は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）第13条第1項の規定に基づき、フェリス女学院大学学則（1965年4月1日制定。以下「大学学則」という。）及びフェリス女学院大学大学院学則（1991年3月20日制定。以下「大学院学則」という。）に規定するもののほか、フェリス女学院大学（以下「本学」という。）が授与する学位について必要な事項を定めるものとする。

（学位の種類）

第2条 本学において授与する学位及びその種類は、次のとおりとする。

（1）学士（国際社会）、学士（心理コミュニケーション）又は学士（文化表現）

第2章 学士

（学士の学位授与）

第3条 学長は、本学学部において、各学科所定の課程を修了し、大学学則第18条の規定により卒業資格の認定を受けた者には、その卒業を認め、学士の学位を授与し、様式第1の卒業証書・学位記を交付する。

2 前項の規定により授与する学士の学位は、国際社会学科を卒業した者には学士（国際社会）、心理コミュニケーション学科を卒業した者には学士（心理コミュニケーション）、文化表現学科を卒業した者には学士（文化表現）とする。

第4条 本学において、学士の学位を授与された者がその学位の名称を用いるときは、「フェリス女学院大学」の本学名を学位に付記するものとする。

第3章 修士

（修士の学位授与の要件）

第5条 学長は、本学の大学院各研究科において、各専攻の修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、所定の授業科目を30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士の学位申請論文又は特定の課題についての研究の成果（以下「研究成果」という。）を提出してその審査及び最終試験に合格した者に、大学院学則第14条第1項の規定により、修士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、特に優れた業績を上げた者については、大学院に1年以上在学すれば足りる。

第2編 大学（学位規則）

- 2 前項の規定により授与する修士の学位は、人文科学研究科を修了した者には修士（文学）、音楽研究科を修了した者には修士（音楽）、国際交流研究科を修了した者には修士（国際交流）とする。

（修士の学位申請論文の提出）

第6条 修士課程及び博士前期課程に1年以上在学し、所定の授業科目を20単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、課程修了予定年次の1月に修士の学位申請論文を提出することができる。

- 2 修士の学位を申請する者は、修士の学位申請論文1編1部を、当該研究科に提出しなければならない。ただし、修士の学位申請論文に、参考として他の論文を添付することができる。

- 3 大学院学則第18条ただし書及び前条ただし書の規定を適用されている者の修士の学位申請論文の提出時期については、各研究科委員会の定めるところによる。

（審査資料の請求）

第7条 修士の学位申請論文の審査のため必要があるときは、参考論文、関係資料等の提出を求めることができる。

（修士の学位申請論文の審査）

第8条 前2条の規定により修士の学位申請論文が提出されたときは、当該研究科は、その審査のため、当該研究科委員会の承認を経て、審査委員会を設置し、審査委員を選出する。

- 2 審査委員会は、3名以上の審査委員で構成し、主査は1名とする。

- 3 審査委員は、当該研究科専任教員から選出し、修士の学位申請論文に関連のある授業科目を担当する教員及び研究指導を担当する教員を含むものとする。

- 4 審査のため必要と認めるときは、当該研究科は、当該研究科委員会の承認を経て、前項の規定にかかわらず、次に掲げる者を主査以外の審査委員1名として充てることができる。

(1) 本学大学院専任教員のうち、修士課程又は博士前期課程の授業科目を担当する教員又は研究指導を担当する教員

(2) 他の大学院、研究所等の教員又は学識経験者

- 5 審査委員会は、修士の学位申請論文の審査、最終試験に関する事項等を行う。

（修士の研究成果の提出等）

第8条の2 修士の研究成果の提出及び審査の方法等については、別に定める。

（修士の学位申請論文及び研究成果の審査基準）

第9条 修士の学位申請論文及び研究成果は、広い視野に立って精深な学識を修め、専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を示すものでなければならない。

（修士の最終試験）

第10条 大学院学則第11条及び第12条に規定する最終試験は、修士の学位申請論文又は研究成果の内容及びこれに関連する専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力等について、筆記又は口頭で行う。

第4章 博士

（博士の学位授与の要件）

第2編 大学（学位規則）

第11条 学長は、本学の大学院人文科学研究科又は国際交流研究科において、各専攻の博士課程に5年（修士課程又は博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し、所定の授業科目を42単位以上（修士課程又は博士前期課程を修了した者にあつては、当該課程で修得した30単位を含む。以下同じ。）修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士の学位申請論文を提出してその審査及び最終試験に合格した者に、大学院学則第14条第1項の規定により、博士の学位を授与する。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績を上げた者については、大学院学則第11条の2第1項から第3項までのただし書に規定するところによる。

2 前項の規定にかかわらず、博士課程を経ない者についても博士の学位申請論文を提出してその審査及び試験に合格し、その関係専攻分野に関し本学の大学院博士課程を修了した者と同等以上の学力学識を有すると確認した場合には、博士の学位を授与することができる。

3 前2項の規定により授与する博士の学位は、人文科学研究科を修了した者には博士（文学）、国際交流研究科を修了した者には博士（国際交流）とする。

（博士課程在学者の博士の学位申請論文の提出）

第12条 前条第1項の規定により、博士課程に4年以上在学し、所定の授業科目を42単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた者は、課程修了予定年次に博士の学位申請論文を提出することができる。

2 博士の学位を申請する者は、博士学位申請書に、博士の学位申請論文1編4部及び同電子データ1部、論文要旨4部及び同電子データ1部並びに履歴書4通を添え、当該研究科に提出しなければならない。ただし、博士の学位申請論文に、参考として他の論文を添付することができる。

3 大学院学則第18条ただし書及び前条第1項のただし書の規定を適用されている者の博士の学位申請論文の提出時期については、各研究科委員会の定めるところによる。

4 提出した博士の学位申請論文を撤回する場合は、最終試験実施日から7日後までに、博士学位申請撤回届を学長に提出しなければならない。

（審査資料の請求）

第12条の2 博士の学位申請論文の審査のため必要があるときは、参考論文、論文の訳文又は関係資料等の提出を求めることができる。

（博士課程を経ない者の博士の学位申請論文の提出及び博士論文審査手数料）

第13条 第11条第2項の規定により、博士の学位申請論文を提出するときは、本学研究科に所属する関係専門分野の教授の許可を受けた上で、博士学位申請書に、博士の学位申請論文1編4部及び同電子データ1部並びに論文要旨4部及び同電子データ1部並びに論文目録4通並びに履歴書4通並びに博士論文審査手数料を添え、学長に提出しなければならない。ただし、博士の学位申請論文に、参考として他の論文を添付することができる。

2 博士の学位申請論文の提出方法及び時期は、博士課程在学者が提出する場合に準じるものとする。

3 博士論文審査手数料は、別に定める。

4 提出した博士の学位申請論文を撤回する場合は、最終試験実施日から7日後までに、博士学

第2編 大学（学位規則）

位申請撤回届を学長に提出しなければならない。

（審査の付託）

第13条の2 第11条第2項の規定により博士の学位申請論文が提出されたときは、学長は、申請された学位に該当する研究科委員会にその審査を付託する。

（博士の学位申請論文の審査）

第14条 第12条の規定により博士の学位申請論文が提出されたとき、又は前条の規定により博士の学位申請論文の審査が付託されたときは、当該研究科は、その審査のため、当該研究科委員会の承認を経て、審査委員会を設置し、審査委員を選出する。

2 審査委員会は3名以上の審査委員で構成し、主査は1名とする。

3 主査は、当該研究科専任教員のうち、博士の学位申請論文に関連のある授業科目を担当する教員又は研究指導を担当する教員から選出するものとする。

4 前項に定める主査以外の審査委員には、次に掲げる者を含むものとする。

(1) 本学大学院専任教員のうち、博士後期課程の授業科目を担当する教員又は研究指導を担当する教員

(2) 他の大学院、研究所等の教員又は学識経験者

5 審査委員会は、博士の学位申請論文の審査、学力学識の確認、最終試験に関する事項等を行う。

（博士の学位申請論文の審査基準）

第15条 博士の学位申請論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を示すものでなければならない。

（博士の最終試験）

第16条 大学院学則第11条の2及び第12条に規定する最終試験は、博士の学位申請論文の内容及び専攻分野について研究者として自立して行う研究活動又は高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識等について、筆記又は口頭で行う。

2 博士課程を経ない者で、博士の学位申請論文を提出した者については、前項のほか本学大学院の博士課程を修了した者と同等以上の学力学識を有するか否かを確認する。

（博士論文要旨等の公表）

第17条 本学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文（以下「博士論文」という。）の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨をインターネットの利用により公表する。

（博士論文の公表）

第18条 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に「フェリス女学院大学審査学位論文」である旨を明記して、当該博士論文の全文をインターネットの利用により公表しなければならない。ただし、当該博士の学位を授与される前に既にインターネットの利用により公表したときはこの限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、当該研究科委員会の承認を得て、当該博士論文の全文に代えてその内容を要約したものを、「フ

第2編 大学（学位規則）

ェリス女学院大学審査学位論文の要約」である旨を明記して、インターネットの利用により公表することができる。この場合において、本学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

（博士の学位授与の報告等）

第19条 本学が博士の学位を授与したときは、学長は、当該学位を授与した日から3月以内に、様式第3による学位（博士）授与報告書を文部科学大臣に提出するものとする。

（学位簿登録）

第20条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は、学位簿に登録する。

第5章 修士・博士共通事項

（学位申請論文の審査期間等）

第21条 審査委員会は、修士については、学位申請論文又は研究成果の受理後2月以内に、博士については、博士課程在学中の者の場合は博士の学位申請論文の受理後5月以内に、博士課程を経ない者（博士後期課程を退学した者を含む。）の場合は博士の学位申請論文の受理後10月以内にその審査及び最終試験を終了しなければならない。

（審査結果の報告）

第22条 審査委員会は、学位申請論文又は研究成果の審査及び最終試験を終了したときは、審査の結果及び評価に関する意見を付して、最終試験の成績とともに、当該研究科委員会に報告しなければならない。

2 審査委員会は、学位申請論文又は研究成果の審査の結果、その内容が著しく不適格であると認めるときは、最終試験を行わないことができる。この場合には、審査委員会は、その旨を当該研究科委員会に報告しなければならない。

（研究科委員会の審議）

第23条 各研究科委員会は、前条の報告に基づいて審議し、修士又は博士の学位を授与することの可否を議決する。

2 前項の議決は、当該研究科委員会の構成員の3分の2以上の者が出席し、出席者の3分の2以上の者の賛成がなければならない。

3 各研究科委員会が第1項の議決をしたときは、当該研究科長は速やかに、学長及び大学院委員会に報告しなければならない。

（学位記の交付）

第24条 学長は、前条第3項の報告に基づいて、修士又は博士の学位の授与を議決された者に様式第2の学位記を交付する。

2 修士又は博士の学位を授与できない者には、その旨を通知する。

（学位の名称）

第25条 本学において、修士又は博士の学位を授与された者がその学位の名称を用いるときは、これに本学名を次のとおり付記するものとする。

(1) 修士（文学、音楽又は国際交流）（フェリス女学院大学）

(2) 博士（文学又は国際交流）（フェリス女学院大学）

第6章 その他

第2編 大学（学位規則）

（学位授与の取消）

第26条 本学において、学位を授与された者に次の事実があったときは、学長は、学士については教授会及び大学評議会の議を経て、修士及び博士については当該研究科委員会及び大学院委員会の議を経て、その授与した学位を取り消すものとする。

(1) 不正な方法によって学位の授与を受けた事実が判明したとき

(2) 名誉を汚す行為があったとき

（改正）

第27条 この規則の改正は、大学院委員会及び大学評議会の議を経て、理事会が行う。

附 則

この規則は、1991年4月1日から施行する。

附 則〔1991年9月6日理事会決定〕

この規則は、1991年9月6日から施行する。

附 則〔1994年10月24日理事会決定〕

1 この規則は、1995年4月1日から施行する。

2 人文科学研究科英文学専攻及び日本文学専攻の修士課程は、フェリス女学院大学大学院学則第4条の規定にかかわらず、1995年3月31日に当該課程に在学する者が当該課程に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則〔1995年5月25日理事会決定〕

1 この規則は、1997年4月1日から施行する。

2 文学部国際文化学科は、フェリス女学院大学学則第2条の規定にかかわらず、1997年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則〔1997年5月20日理事会決定〕

この規則は、1998年4月1日から施行する。

附 則〔2001年2月19日理事会決定〕

1 この規則は、2001年4月1日から施行する。

2 人文科学研究科地域文化専攻は、フェリス女学院大学大学院学則第4条の規定にかかわらず、2001年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

3 人文科学研究科博士後期課程2000年度以前入学者の博士の学位授与の要件は、改正後の第11条から第13条までの規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2001年10月25日理事会決定〕

この規則は、2001年7月23日から施行し、2001年4月1日から適用する。

附 則〔2003年9月25日理事会決定〕

この規則は、2003年9月25日から施行し、2003年4月1日から適用する。ただし、この規則の改正前に退学した博士後期課程単位修得満期退学者の取り扱いについては、改正後の第13条第3項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2007年2月22日理事会決定〕

この規則は、2007年4月1日から施行する。

第2編 大学（学位規則）

附 則〔2008年2月28日理事会決定〕

この規則は、2008年2月28日から施行し、2007年度に提出された学位申請論文から適用する。

附 則〔2013年10月24日理事会決定〕

- 1 この規則は、2013年10月24日から施行し、2013年4月1日から適用する。
- 2 2013年3月31日以前に博士の学位を授与されたものについては、改正後の第12条、第13条、第17条及び第18条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2015年2月26日理事会決定〕

この規則は、2015年2月26日から施行する。

附 則〔2016年3月24日理事会決定〕

この規則は、2016年4月1日から施行する。

附 則〔2017年5月25日理事会決定〕

この規則は、2017年5月25日から施行し、2017年4月1日から適用する。ただし、本学大学院博士後期課程2016年度以前入学者の博士の学位授与の要件は、改正後の第11条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2019年2月28日理事会決定〕

この規則は、2019年4月1日から施行する。

附 則〔2019年10月24日理事会決定〕

この規則は、2019年10月24日から施行する。

附 則〔2022年2月24日理事会決定〕

この規則は、2022年4月1日から施行する。ただし、本学大学院博士後期課程2021年度以前入学者の博士の学位授与の要件は、改正後の第11条及び第12条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則〔2024年2月29日理事会決定〕

- 1 この規則は、2025年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行の際、現に文学部英語英米文学科、日本語日本文学科及びコミュニケーション学科、音楽学部音楽芸術学科及び演奏学科並びに国際交流学部国際交流学科に在学する者（以下「在学者」という。）並びに2025年4月1日以後において在学者の属する年次に再入学、編入学及び転入学並びに転学部及び転学科する者（以下「再入学者等」という。）に授与する学位及びその種類は、当該在学者及び再入学者等が在学しなくなる日までの間、改正後の第2条第1号の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 改正後の第3条第2項の規定にかかわらず、文学部英語英米文学科、日本語日本文学科及びコミュニケーション学科を卒業した者には学士（文学）、音楽学部音楽芸術学科及び演奏学科を卒業した者には学士（音楽）、国際交流学部国際交流学科を卒業した者には学士（国際交流学）の学位を授与する。

第2編 大学（学位規則）

様式第1（第3条関係）

卒業証書・学位記	
氏名	年月日生
本学	学部
課程を修めて本学を卒業したことを認め	
学士（	）の学位を授与する
年 月 日	
学。第 号	
フェリス女学院大学。学部長	印
フェリス女学院大学長	印

様式第2の1（第5条・第24条関係）

学位記	
氏名	年月日生
本学大学院	研究科
博士前期課程	専攻
の	を修了したので修士（
修士課程	）
の学位を授与する	
年 月 日	
修。第 号	
フェリス女学院大学長	印

第2編 大学（学位規則）

様式第2の2（第11条第1項・第24条関係）

学位記		氏名	年月日生	専攻	研究科	本学大学院	の博士課程を修了したので博士（ ） の学位を授与する	年月日	博○甲第 号	フェリス女学院大学長	印
-----	--	----	------	----	-----	-------	----------------------------------	-----	-----------	------------	---

様式第2の3（第11条第2項・第24条関係）

学位記		氏名	年月日生	論文	題目	を提出し所定の審査及び試験に合格したので 博士（ ）の学位を授与する	年月日	博○乙第 号	フェリス女学院大学長	印
-----	--	----	------	----	----	--	-----	-----------	------------	---

第2編 大学（学位規則）

様式第3（第19条関係）

学位（博士）授与報告書

フェリス女学院大学大学院

報告番号	博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者				博士課程の修了等の状況			博士論文名	授与年月日	博士論文受理年月日	論文審査終了年月日
		（ふりがな）氏名	性別	生年月日	本籍	大学院名	研究科（専攻）名	修了（中退）年月日				
甲第号 乙	博士()				都道府県							
甲第号 乙	博士()				都道府県							
甲第号 乙	博士()				都道府県							
甲第号 乙	博士()				都道府県							

備考

- 1 報告番号は、学位規則（昭和28年文部省令第9号）により授与された博士の一連番号とし、同規則第4条第1項によるものについては「甲第号」、同条第2項によるものについては「乙第号」とすること。
- 2 博士の学位を授与された者が日本国籍以外の国籍を有する場合には、本籍に代えて当該国籍を記入すること。
- 3 博士論文の題名が外国語で表示されている場合には、日本語訳を（ ）を付して記入すること。
- 4 この報告書は、学位規則第12条（本学学位規則第19条）に定める期間内に、該当する者をまとめて、随時に一覧表の形で提出すること。